

2023(令和5)年度 第1回  
尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会・地域別意見交換会

日 時：2023(令和5)年7月25日(火) 13:30～16:30

場 所：ウェブ会議システム「WebEx」

次 第

【第1部】(公開)

1. 開会・挨拶

2. 議事

- (1) 協議会設置要綱の改正について
- (2) 2022(令和4)年度対策実施結果について
- (3) 2023(令和5)年度対策実施状況について(トピック)
- (4) 2024(令和6)年度重点方針の検討について
- (5) 現行対策方針の課題及び次期対策方針について

【第2部】(非公開)

地域別意見交換

- ・栃木：奥日光の自然保護の歩みを進めよう
- ・群馬新潟：優先防護エリアにおける対策の進捗状況
- ・福島：田代山・帝釈山・会津駒ヶ岳におけるシカ対策

【配布資料一覧】

<第1部：協議会>

資料 議事次第（本紙）

資料 出席者名簿

資料 1-1 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会設置要綱改正（案）

資料 1-2 2022（令和4）年度における対策実施結果

資料 1-3 2023（令和5）年度における対策実施状況

資料 1-4 2024（令和6）年度の重点方針（案）

資料 1-5 対策方針改正の考え方

<第2部：地域別意見交換会>

資料 2-1 栃木意見交換会資料

資料 2-2 群馬新潟意見交換会資料

資料 2-3 福島意見交換会資料

<参考資料>

参考資料 2022（令和4）年度実施結果の自己評価シート

参考資料 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針（概要版）

参考資料 2023（令和5）年度の重点方針及び実施計画

## 2023(令和5)年度 第1回尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策広域協議会 出席者名簿

2023(令和5)年7月25日(火)

所属	役職	氏名	会場(web)
関東森林管理局 計画保全全部保全課	鑑定官	渡邊 慶太	福島
	保護係長	真下 典子	群馬新潟
会津森林管理署南会津支署	森林技術指導官	佐々木 直樹	福島
	総括森林整備官	櫻井 勝	福島
	森林情報管理官	辻ノ内 桂志	福島
日光森林管理署	森林技術指導官	野口 光三	栃木
	総括森林整備官	佐藤 幸男	栃木
利根沼田森林管理署	森林技術普及専門官	田中 直己	群馬新潟
	主任森林整備官	須藤 洋一	群馬新潟
中越森林管理署	森林技術指導官	本田 誠	群馬新潟
	森林整備官	大仁田 秀介	群馬新潟
栃木県 環境森林部自然環境課	副主幹	藤田 正希	栃木
	技師	長谷川 健太	栃木
県西環境森林事務所環境部環境企画課	副主幹	高原 千春	栃木
群馬県 森林環境部環境局自然環境課 尾瀬保全推進室	室長	臼田 栄慈	群馬新潟
	企画推進係係長	西嶋 弘満	群馬新潟
	主任	大澤 康生	群馬新潟
地域創生部文化財保護課	主幹	茂木 誠	群馬新潟
福島県 生活環境部自然保護課 教育庁文化財課	主査	小原 真奈美	福島
		欠席	
新潟県 県民生活・環境部環境企画課 観光文化スポーツ部文化課		欠席	
		欠席	
日光市 観光経済部 環境森林課	係長	山内 宣明	栃木
	主幹	星野 俊二	栃木
片品村 農林建設課	主任	大竹 凜	群馬新潟
南会津町 館岩総合支所 振興課	課長補佐	長沼 正憲	福島
	主事	渡部 龍人	福島
檜枝岐村 産業建設課	課長	星 友和	福島
	副主査	井上 宏司	福島
魚沼市 生活環境課		欠席	
東京電力リニューアブルパワー株式会社 水力部 水利・尾瀬グループ	専門課長	須永 勝博	群馬新潟
	課長補佐	篠原 哲也	群馬新潟
	副長	安元 文一	群馬新潟
尾瀬山小屋組合	組合長	平石 忠一	群馬新潟
	事務局	山田 克巳	群馬新潟
公益財団法人尾瀬保護財団 企画課	課長	登坂 英季	群馬新潟
	主幹	村松 智未	福島
東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所 環境保全グループ	副長	宮澤 公明	群馬新潟
	グループマネージャー	高野 尚之	群馬新潟

## 【有識者】

宇都宮大学	名誉教授	谷本 丈夫	栃木
群馬新潟県立自然史博物館	生物研究係 主幹	大森 威宏	群馬新潟
広島修道大学	人間環境学部 准教授	奥田 圭	福島

## 【事務局】

関東地方環境事務所 国立公園課	次長	立田 理一郎	-
	課長	植竹 朋子	全部
	自然保護官	安生 浩太	栃木
	自然保護官	黒田 浩太郎	福島
野生生物課	課長	千葉 康人	-
	課長補佐	最上 祥成	群馬新潟
日光国立公園管理事務所	所長	千田 純子	栃木
	国立公園保護管理企画官	二神 紀彦	栃木
	生態系保全等専門員	吉川 美紀	栃木
檜枝岐自然保護官事務所	国立公園管理官	山崎 大輔	福島
片品自然保護官事務所	自然保護官	服部 優樹	群馬新潟
	生態系保全等専門員	黒沢 秀基	群馬新潟
株式会社テンドリル	代表取締役	淵脇 智博	福島
	取締役	宮本 留衣	群馬新潟
	技師	坂本 祥乃	栃木
株式会社野生動物保護管理事務所	取締役/社長	奥村 忠誠	福島
	取締役/部長	西村 愛子	栃木
	主任研究員	瀬戸 隆之	群馬新潟
	主任研究員	榊 葵	群馬新潟
	研究員	小林 春香	福島
	研究員	小林 祥	福島
	研究員	吉田 真悟	栃木
	研究員	羽根田 貴行	群馬新潟
プロジェクト推進担当	三井 夏紀	栃木	
プロジェクト推進担当	宗兼 明香	栃木	

## 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会 設置要綱

(名称)

第1条 本会は、尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会と称する。

(目的)

第2条 本会は、栃木、群馬、福島、新潟の4県を移動するニホンジカの日光利根地域個体群等の分布地域において、関係機関・団体が広域的に連携し、適切な個体群の管理及びその他の必要な対策を実施することにより、尾瀬国立公園及び日光国立公園の貴重な湿原、森林、高山生態系等に及ぼす影響を低減又は排除することを目的とする。

(構成員)

第3条 本会は、別表に掲げる関係行政機関・団体により構成される。

(活動)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するために、以下の活動を行う。

- ① 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針（以下「シカ対策方針」という）の策定及び見直しに関すること。
- ② シカ対策方針に基づく実施計画の策定及び見直しに関すること。
- ③ 各種調査結果の情報交換及び効果の把握に関すること。
- ④ 実施計画に基づく対策の実施に係る調整に関すること。
- ⑤ その他目的を達成するために必要な事項。

(議長)

第5条 協議会に議長を置き、会の運営に当たる。議長は、関東地方環境事務所次長とする。

(有識者)

第6条 議長は、有識者を協議会に出席させ、意見を聞くことができる。

(会議)

第7条 会議は、必要に応じて議長が招集する。

(事務局)

第8条 協議会の事務局は、関東地方環境事務所に置く。

(ワーキンググループ)

第9条 本会の活動に関して専門的な助言や検討のため、ワーキンググループを置くことができる。

2. ワーキンググループは、事務局が必要と認めたとき招集する。

付則 この要綱は令和元年8月13日から有効とする。

付則 この要綱は令和2年1月22日に改正される。

付則 この要綱は令和5年7月25日に改正される。

## 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会 構成員

	所属	役職
1	関東地方環境事務所	次長
2	林野庁 関東森林管理局 計画保全部 保全課	課長
3	福島県 生活環境部 自然保護課	課長
4	福島県教育庁 文化財課	課長
5	群馬県 環境森林部 自然環境課	課長
6	群馬県 地域創生部 文化財保護課	課長
7	新潟県 環境局 環境対策課	課長
8	新潟県 観光文化スポーツ部 文化課	課長
9	栃木県 環境森林部 自然環境課	課長
10	栃木県 県西環境森林事務所 環境企画課	課長
11	南会津町 館岩総合支所 振興課	課長
12	檜枝岐村 産業建設課	課長
13	片品村 農林建設課	課長
14	魚沼市 市民福祉部 生活環境課	課長
15	日光市 環境森林課	課長
16	東京電力リニューアブルパワー株式会社 水力部 水利・尾瀬グループ	グループマネージャー
17	尾瀬山小屋組合	組合長
18	公益財団法人 尾瀬保護財団	事務局長

## 【事務局】

関東地方環境事務所

# 2022（令和4）年度対策実施結果

2023(令和5)年7月25日

尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会

# 目次

## 1. 地域全体の集計結果

## 2. 事業目標の進捗状況

〈参考〉各地域の状況（全体）

# 尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針（概要版）

## 背景

二ホンジカの増加・分布域の拡大 × 日光と尾瀬を広域的に移動する個体群の存在



関係機関・団体が広域的に連携して、個体群の管理や各種対策を実施する必要

## 現状と課題

### ■尾瀬ヶ原・尾瀬沼

シカの確認数や被害状況が増加傾向

- 生息密度減少のための捕獲強化
- 植生保護柵の迅速な設置

### ■移動経路上

最も捕獲効率が高いが、捕獲の期間・場所に空白

- 特に春の捕獲強化  
(指定管理鳥獣捕獲等事業を活用)

### ■越冬地

標高の高い越冬地での捕獲不足

- 高標高域越冬地での捕獲強化  
(足尾地域など)

### ■分布拡大域（会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山）

食痕増加・範囲拡大、高山域での捕獲が困難

- モニタリング調査による捕獲適地検討
- 状況を見つつ植生保護柵の検討

## 日光国立公園

シカの生息条件下で成立した生態系

## 尾瀬国立公園

シカによる影響を受けずに成立した生態系

## 最終目標 (ゴール)

シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持

尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持

## 事業目標 (5年目途)

- 植生への影響を低減するため、シカの生息密度を現状より低密度に
- 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、防護柵を適切に設置・維持管理

- 湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減
- 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置

# 尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針（概要版）

## 捕 獲

### (1) 共通事項

- 効果的・効率的な捕獲、利用者等の安全対策、自然環境への配慮、捕獲個体の処理、捕獲の実施主体、関連法令等の遵守

### (2) 奥日光・足尾周辺地域

- 定住型個体(通年)及び移動型個体(晩秋～冬)の捕獲
- 足尾地域高標高域での捕獲検討
- 捕獲適地や適期の検討のための情報収集

### (3) 片品・檜枝岐地域(移動型個体の移動経路上)

- 集中通過地域での効率的・効果的な捕獲
- 関係機関で連携した効率的・効果的な捕獲
- 定住型個体の通年捕獲（有害・管理捕獲）

### (4) 尾瀬ヶ原・尾瀬沼地域

- 春から晩秋にかけての移動型個体の捕獲

### (5) 会津駒ヶ岳、田代山・帝釈山周辺地域

- 生息状況調査の結果に基づき捕獲
- 捕獲を効果的に実行するための体制整備

## 植生保護

### (1) 日光国立公園

- 既存防護柵の維持管理、植生の回復、保全対象種の衰退防止
- 防護柵の効果検証
- 防護柵の設置検討(鬼怒沼、女峰山、太郎山)

### (2) 尾瀬国立公園

- 優先防護エリアのA及びBランク区域への5年以内の防護柵の設置
- 防護柵の効果検証

## モニタリング

### (1) モニタリング

- ①生息状況の把握、②植生影響の把握、③対策の効果検証の3つの観点から実施
- モニタリングの継続、事業目標の達成に向けた進捗の把握によりPDCAサイクルを回転
- データの収集・蓄積が効率的に行える手法、共通様式の導入

### (2) 調査研究

- 移動型個体群を含むシカの動態や植生への影響等に関する調査研究の推進

## 2022(令和4)年度 実施計画

### 1. 現状と課題

- 日光・尾瀬地域とも、シカ生息密度は引き続き高い水準にあり、捕獲困難地域での捕獲の強化が必要。
- 日光地域では、捕獲計画の立案のためにGPS追跡調査データの蓄積が必要。
- 尾瀬地域では、2024(令和6)年までに優先防護エリア（A・Bランク）へ防護柵を設置することとしているが、笠ヶ岳、燧ヶ岳、泉水田代、見晴地区への設置が完了していない。
- 防護柵の設置・維持管理手法や、モニタリング方法の情報共有が図られていない。

### 2. 重点方針

#### 日光国立公園

- 高標高域、捕獲困難地域での捕獲の強化・継続。
- 夏季の定住個体を対象とした捕獲を地域主体で効率的に実施。
- 日光版の優先防護エリア案の作成を検討する。
- 夏季の定住個体に装着したGPS首輪調査で把握した夏季定住地、移動経路や越冬地における最適な捕獲の検討。

#### 尾瀬国立公園

- 尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺での捕獲の強化・継続（捕獲適期の検討。六兵衛堀周辺（河畔林）での捕獲の実施など）。
- 通信機能付きカメラを利用したリアルタイムの移動状況の共有による移動経路上での捕獲の強化・継続。
- 優先防護エリアのA・Bランクに防護柵の設置・継続・検討。
- 燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山周辺の優先防護エリアに防護柵の設置を検討。

#### その他共通事項

- 捕獲目標数は捕獲実績、対策方針を踏まえて設定。
- 効果的・効率的な防護柵の設置・維持管理の手法に関する検討・情報共有。
- 出猟カレンダー(指定管理・有害捕獲)の普及。
- 防護柵や優先防護エリア、過去の季節移動経路等の位置情報をGISに集約し、協議会構成員で共有する。

# 地域区分について

(1) 分布拡大地域

(2) 夏季の生息地

(3) 季節移動経路

(4) 主たる越冬地

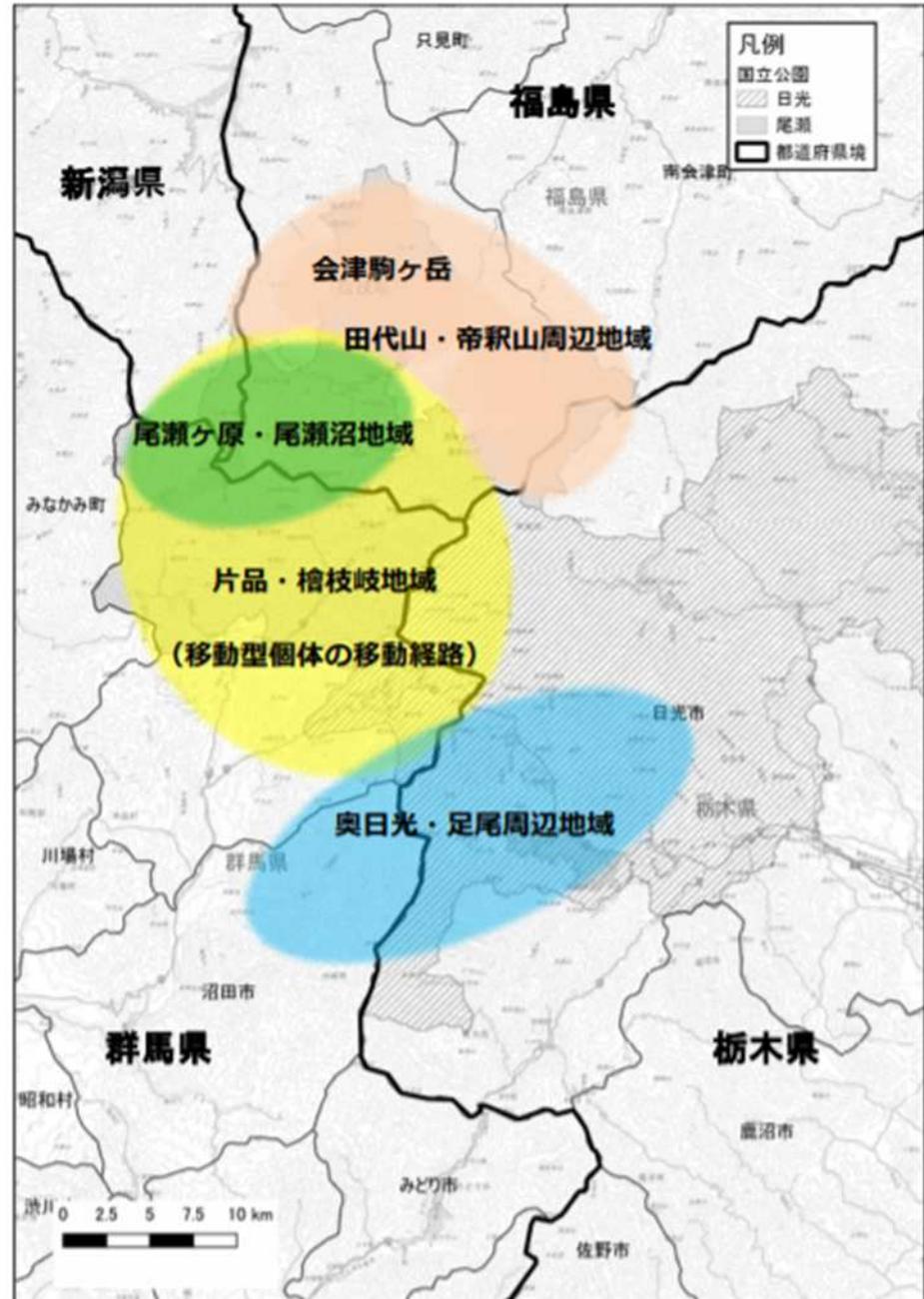
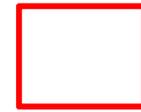
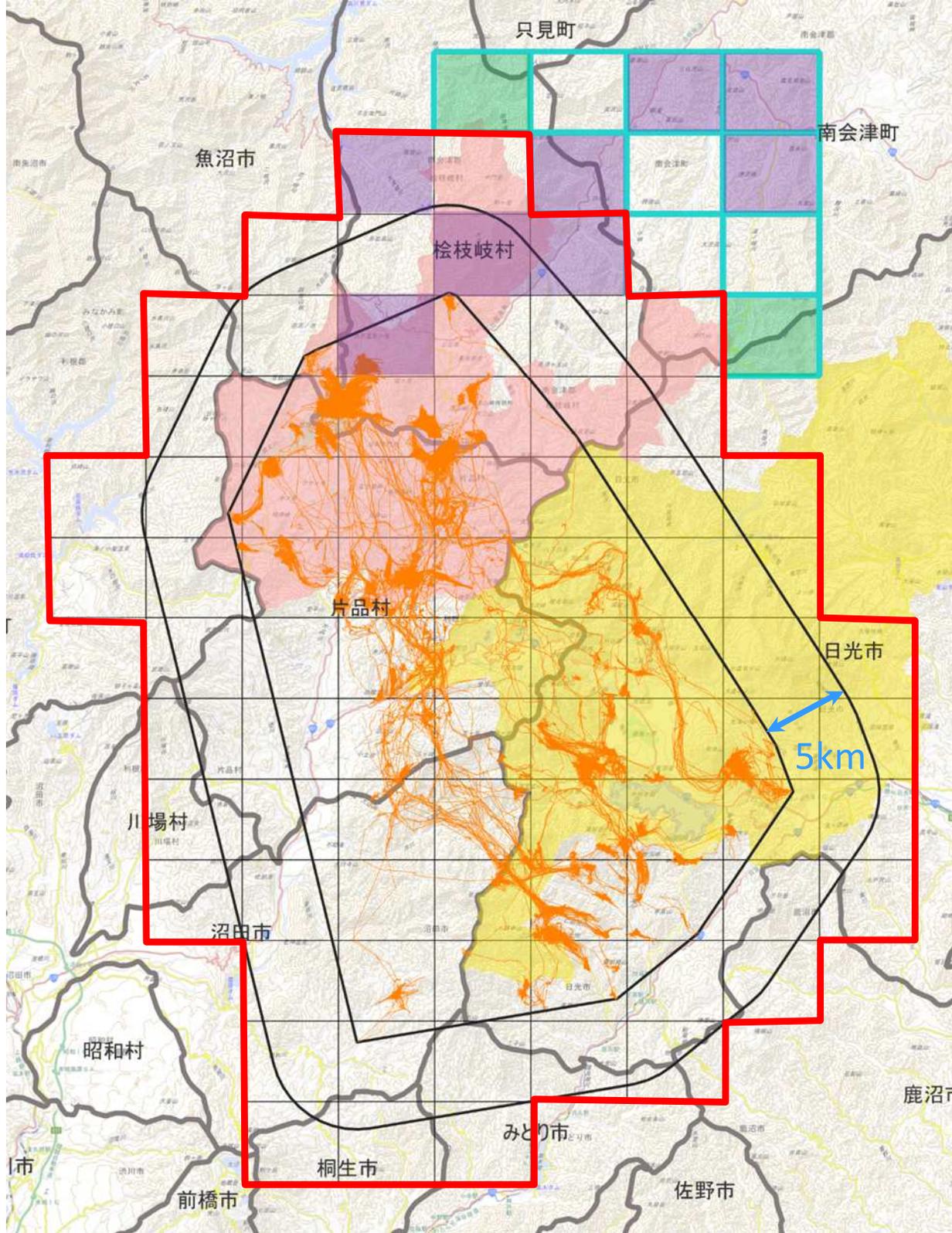


図1 本対策方針の対象区域

# データの収集範囲



既存データ収集範囲



対策範囲隣接地域



福島県糞塊密度調査  
対象メッシュ



尾瀬国立公園範囲を  
含むメッシュ



尾瀬国立公園



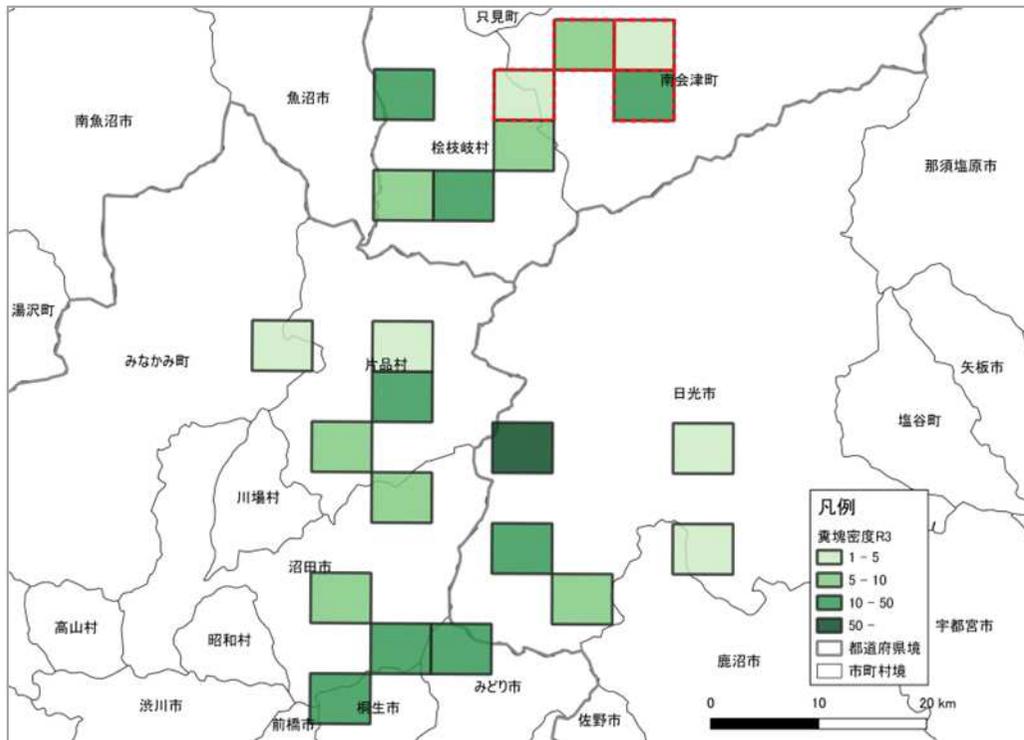
日光国立公園



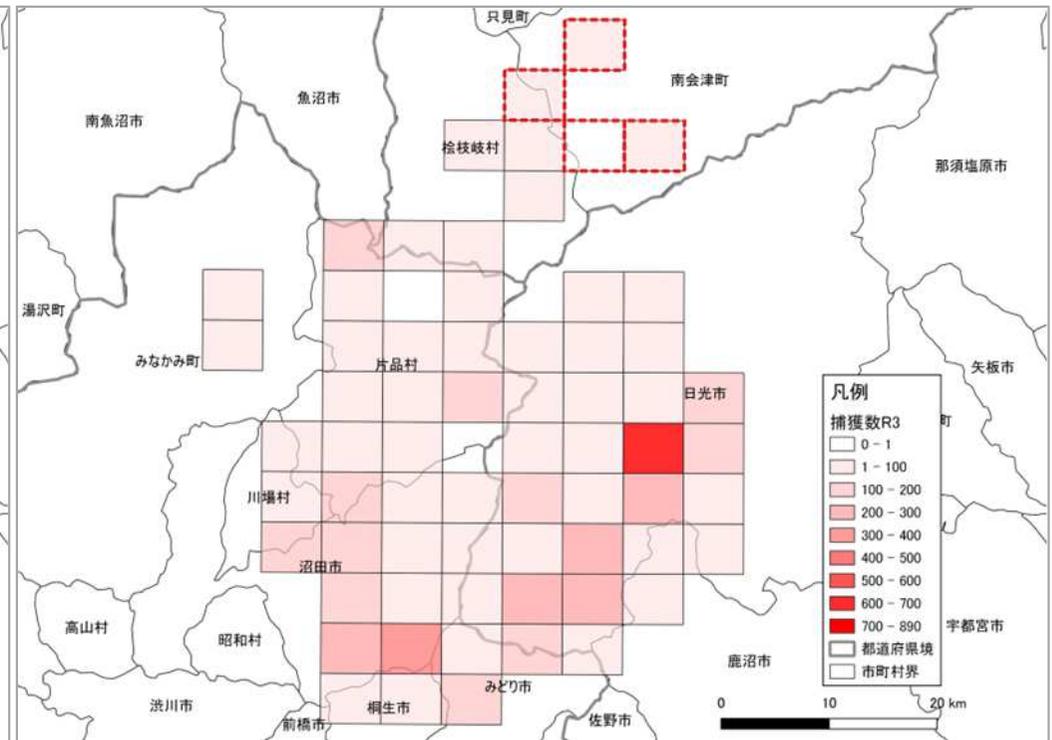
# 2022年度の糞塊密度・捕獲数

- 対策エリア内の糞塊密度は、中央部から南部が高い。
- 対策エリア内の捕獲数は、南東部から南部が多い。

## 糞塊密度



## 捕獲数



# 目次

1. 地域全体の集計結果

2. 事業目標の進捗状況

〈参考〉各地域の状況（全体）

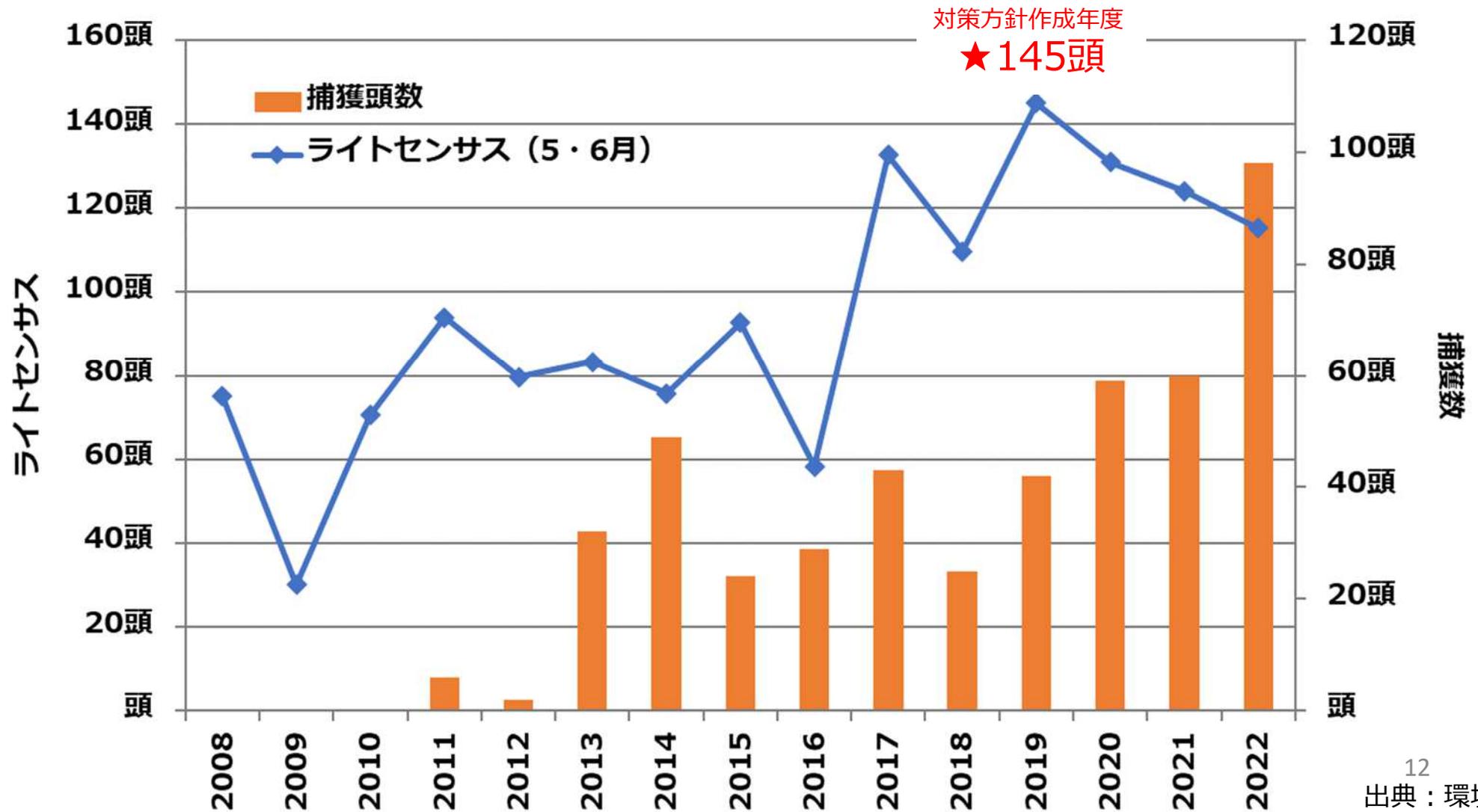
## 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針（概要版）

	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標 (ゴール)	シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持	尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、 <u>湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持</u>
5年事業目標 (5年目途)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 植生への影響を低減するため、<u>シカの生息密度を現状より低密度に</u></li> <li>➤ 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、<u>防護柵を適切に設置・維持管理</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <u>湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</u></li> <li>➤ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、<u>優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</u></li> </ul>



- 尾瀬ヶ原での捕獲数は2013年以降増減を繰り返しているが、近年は増加傾向。  
※2022年過去最高
- 5・6月のライトセンサスの平均確認頭数は増加傾向であったが、近年やや減少。

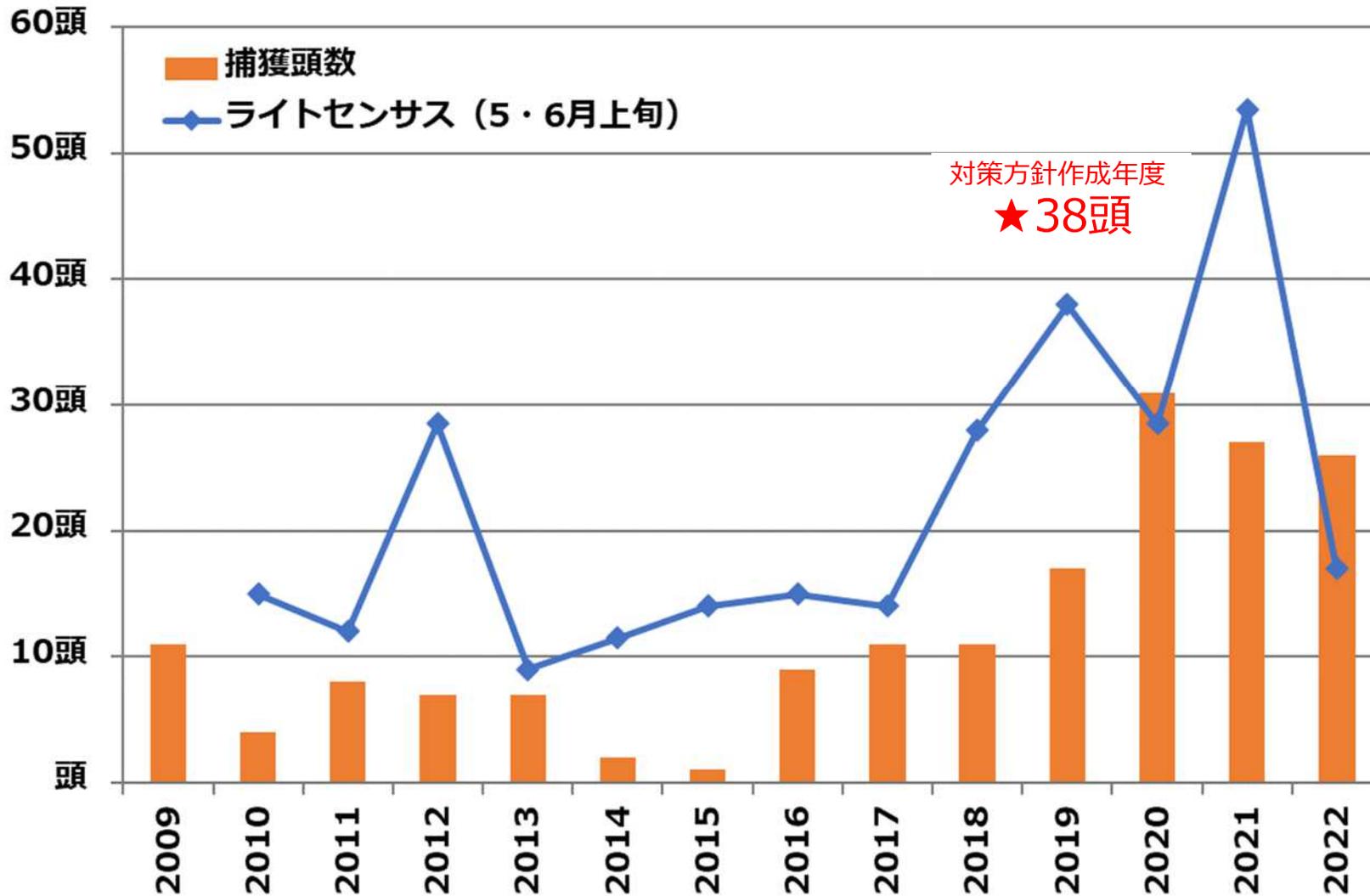
### 捕獲頭数と平均確認個体数の推移





- 尾瀬沼での捕獲数は2016年以降増加傾向であったが、近年は横ばい。
- 5～6月上旬（大江湿原柵設置前）のライトセンサスの平均確認頭数は、2022年は17頭と激減した。

### 捕獲頭数と平均確認個体数の推移



## 尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針（概要版）

	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標 (ゴール)	シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持	尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持
事業目標 (5年目途)	<ul style="list-style-type: none"> <li>植生への影響を低減するため、シカの生息密度を現状より低密度に</li> <li>保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、防護柵を適切に設置・維持管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</li> <li>森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</li> </ul>

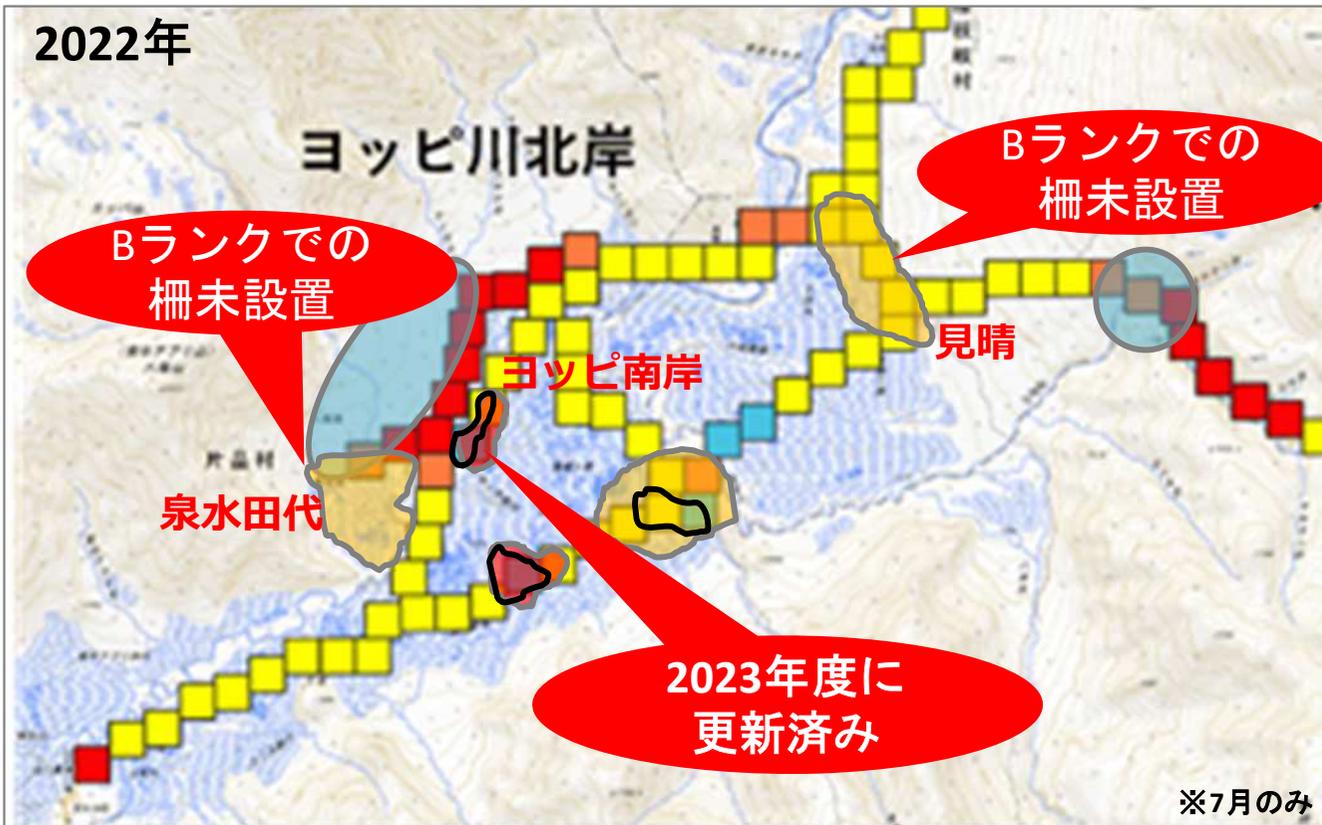
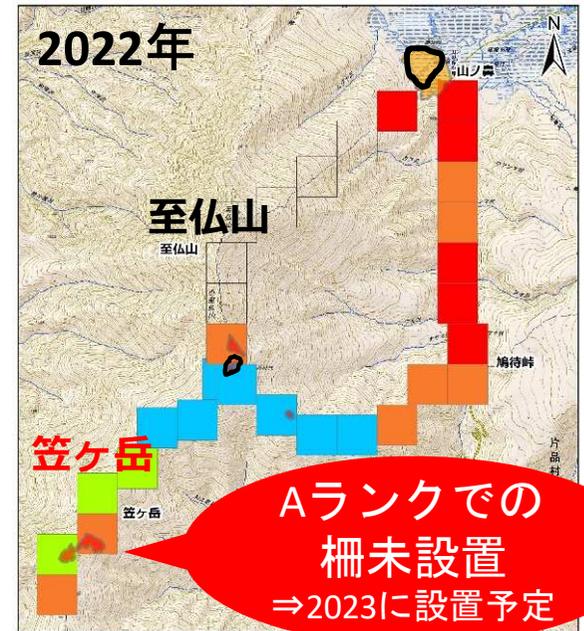
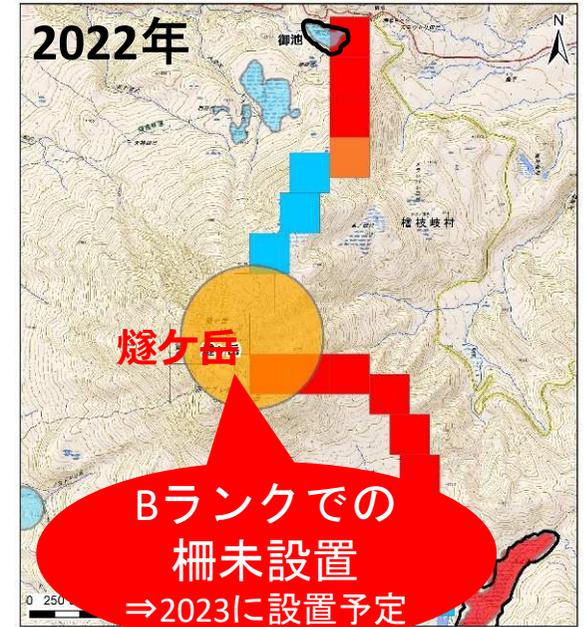




# 尾瀬

## 植生被害状況と対策（泉水田代、見晴、笠ヶ岳、燧ヶ岳）

- 優先防護エリアAに選定されている笠ヶ岳、Bの泉水田代、見晴、燧ヶ岳では採食確認地点数が多いが、柵は未設置。  
(笠ヶ岳・燧ヶ岳は2023年に柵設置予定。)



尾瀬ヶ原	笠ヶ岳・燧ヶ岳	優先防護エリア	シカ柵
なし(□=200m×200m)	なし(□=400m×400m)	A	シカ柵
1-10地点	1-5地点	B	
11-30地点	6-10地点	C	
31-50地点	11-15地点		
51地点以上	16-20地点		
	21地点以上		

※7月のみ

## 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針（概要版）

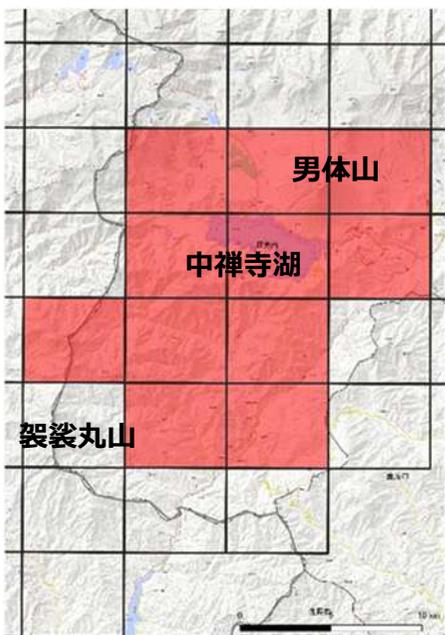
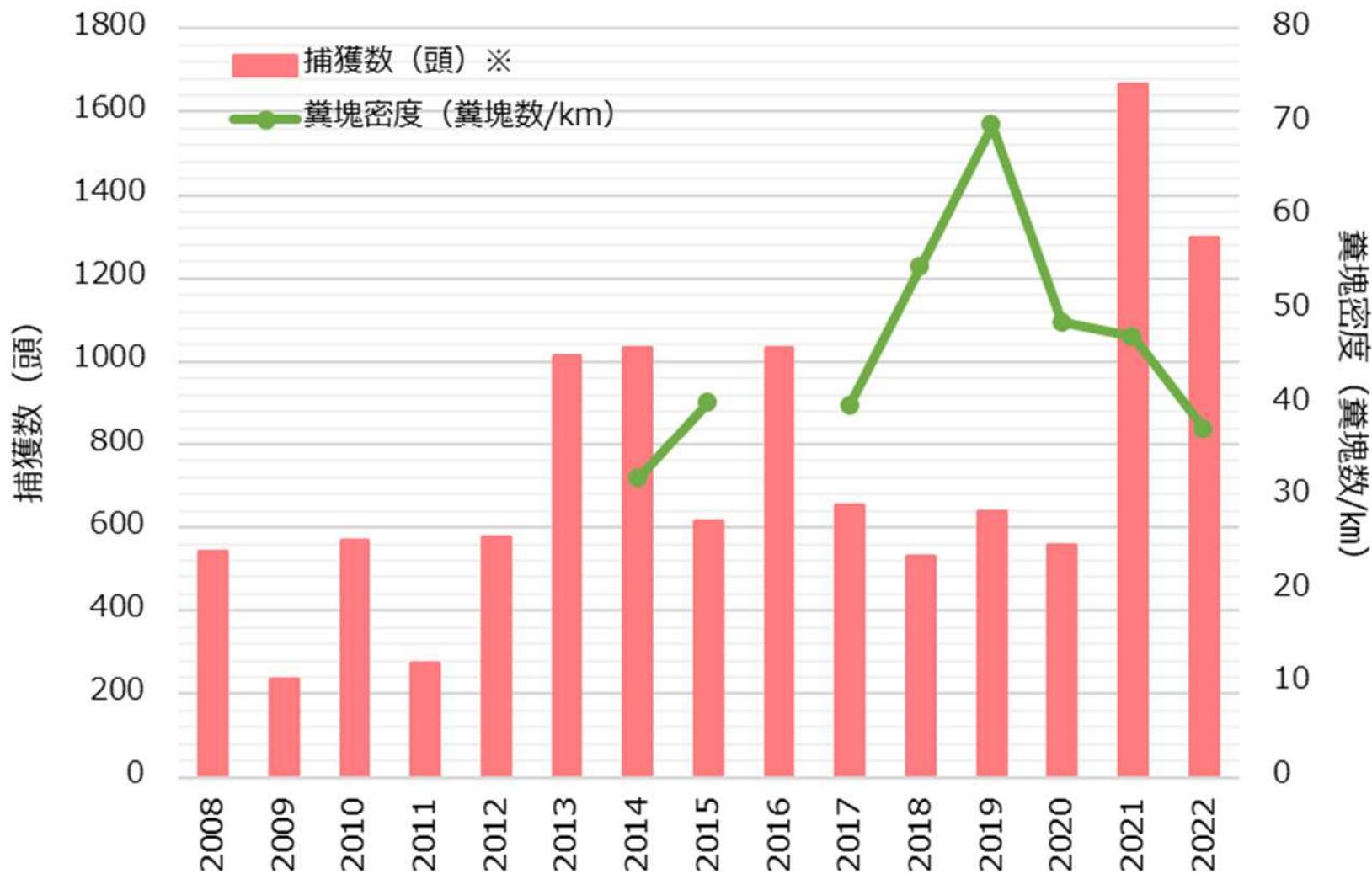
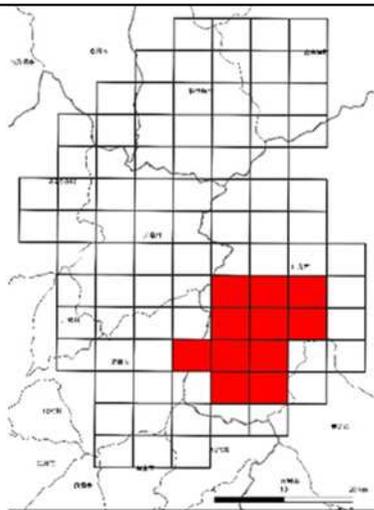
	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標 (ゴール)	シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持	尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、 <u>湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持</u>
事業目標 (5年目途)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <u>植生への影響を低減するため、シカの生息密度を現状より低密度に</u></li> <li>➤ 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、防護柵を適切に設置・維持管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、<u>尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</u></li> <li>➤ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、<u>優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</u></li> </ul>



# 奥日光・足尾 (主たる越冬地)

## 捕獲数と生息状況の推移

- 主たる越冬地での捕獲数（12～3月）は、2014年度をピークに減少傾向であったが、2021年度に急増し、2022年も高い捕獲数を維持。
- 糞塊密度は近年減少傾向。



※捕獲数は、一部季節移動経路と重複。

## 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針（概要版）

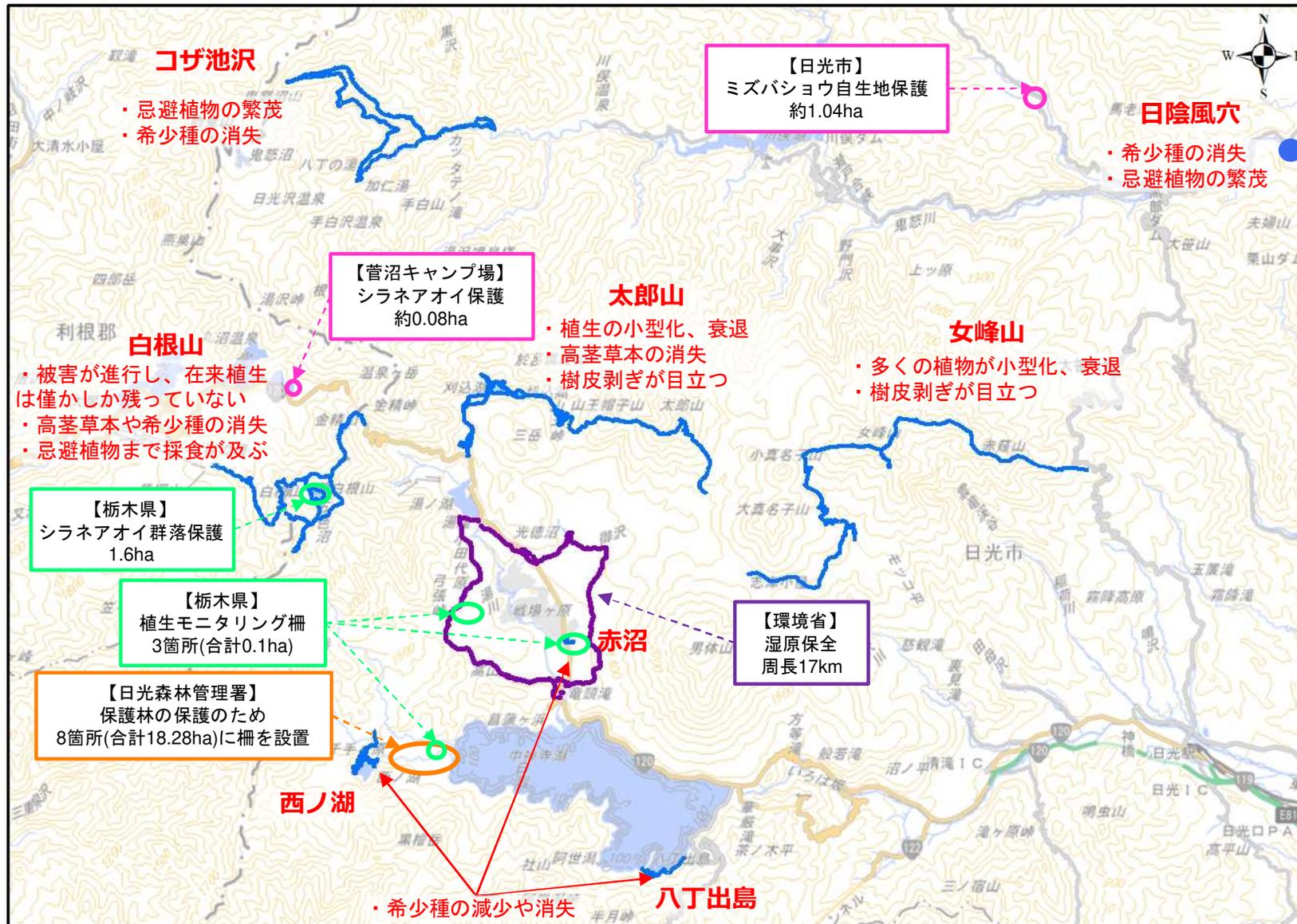
	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標 (ゴール)	シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持	尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持
事業目標 (5年目途)	<ul style="list-style-type: none"> <li>植生への影響を低減するため、シカの生息密度を現状より低密度に</li> <li>保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、防護柵を適切に設置・維持管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</li> <li>森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</li> </ul>



# 奥日光・足尾

## 植生被害状況と対策

- 日光・足尾周辺ではシカの食害が進行、在来植生が大きく変化し、高茎草本や希少種の減少や消失が確認されている。



- 調査箇所
- 栃木県植生保護柵
- 林野庁植生保護柵
- 環境省植生保護柵
- その他植生保護柵

# 目次

1. 地域全体の集計結果
2. 事業目標の進捗状況

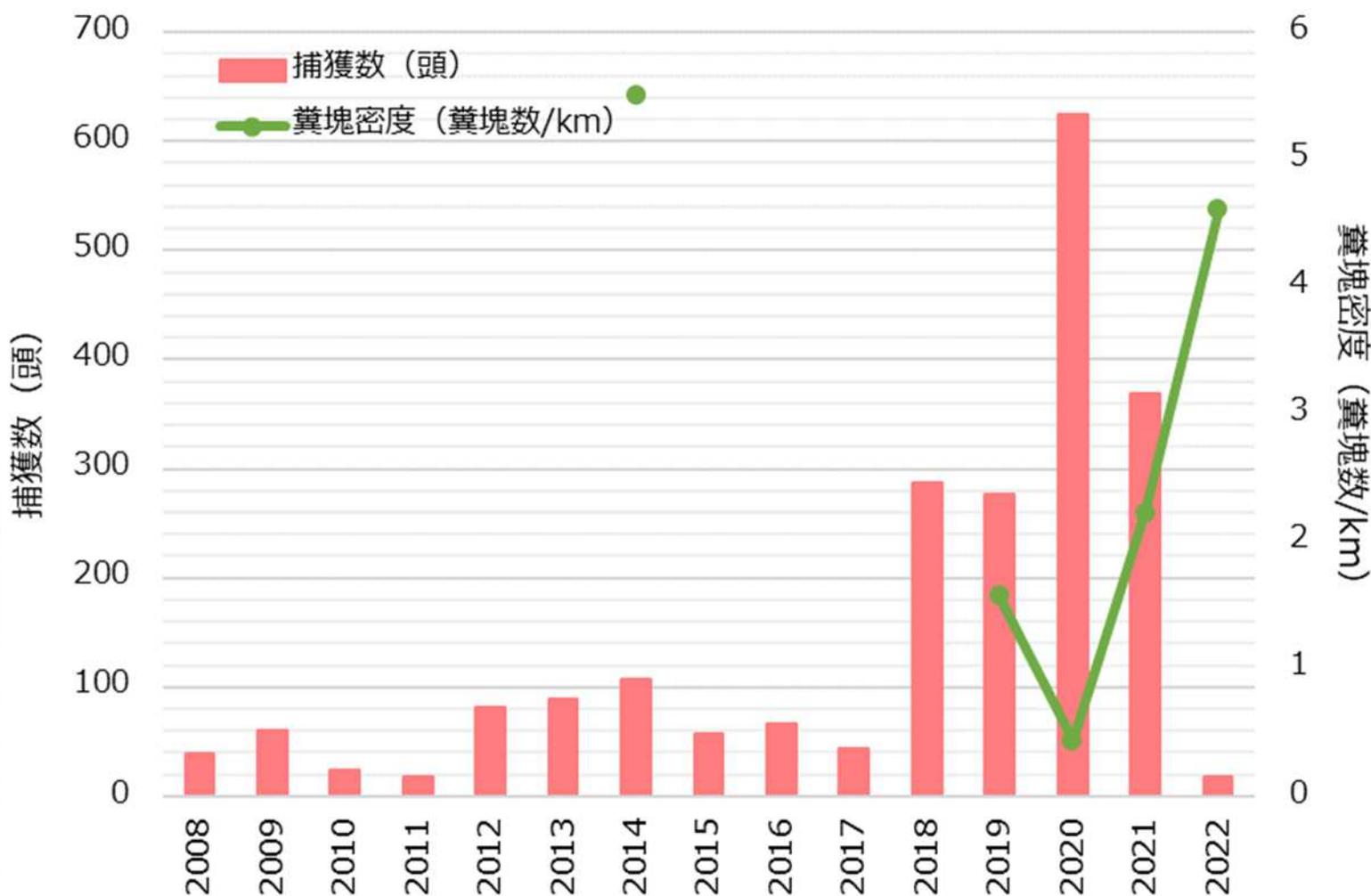
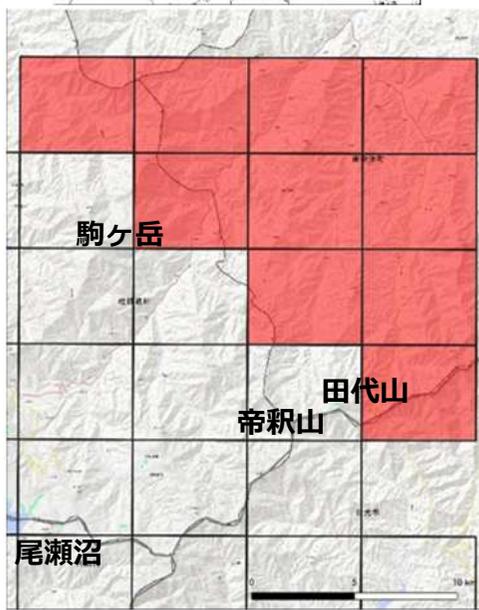
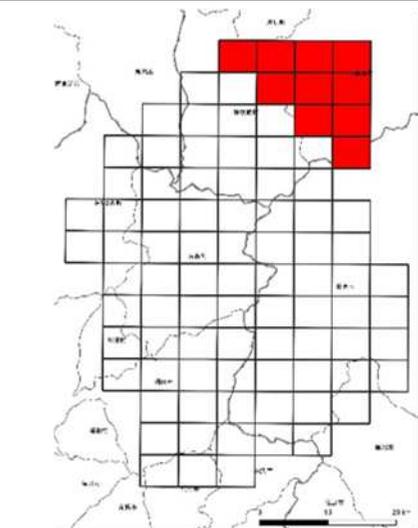
**〈参考〉 各地域の状況（全体）**



# 対策範囲隣接地域 (南会津地域)

## 捕獲数と生息状況の推移

- 対策範囲隣接地域での捕獲数は、2018年度以降急激に増加し、その後増加傾向であったが、2022年度は過去最低頭数だった。
- 当地域の糞塊密度はかなり低いため年ごとの誤差が大きいが、近年は増加傾向。

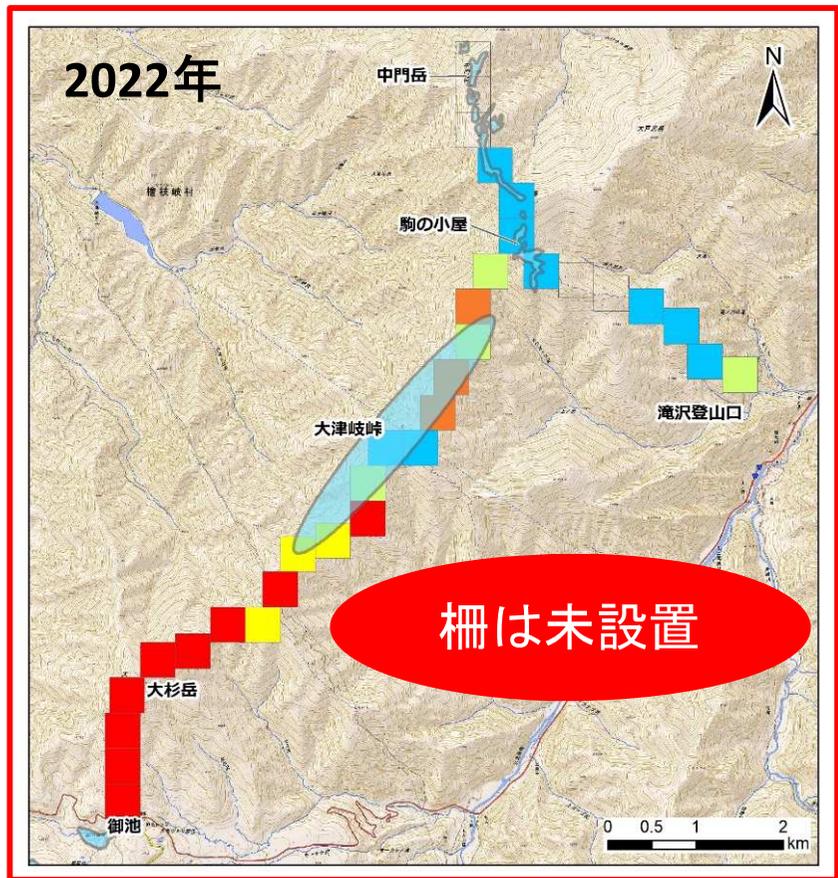
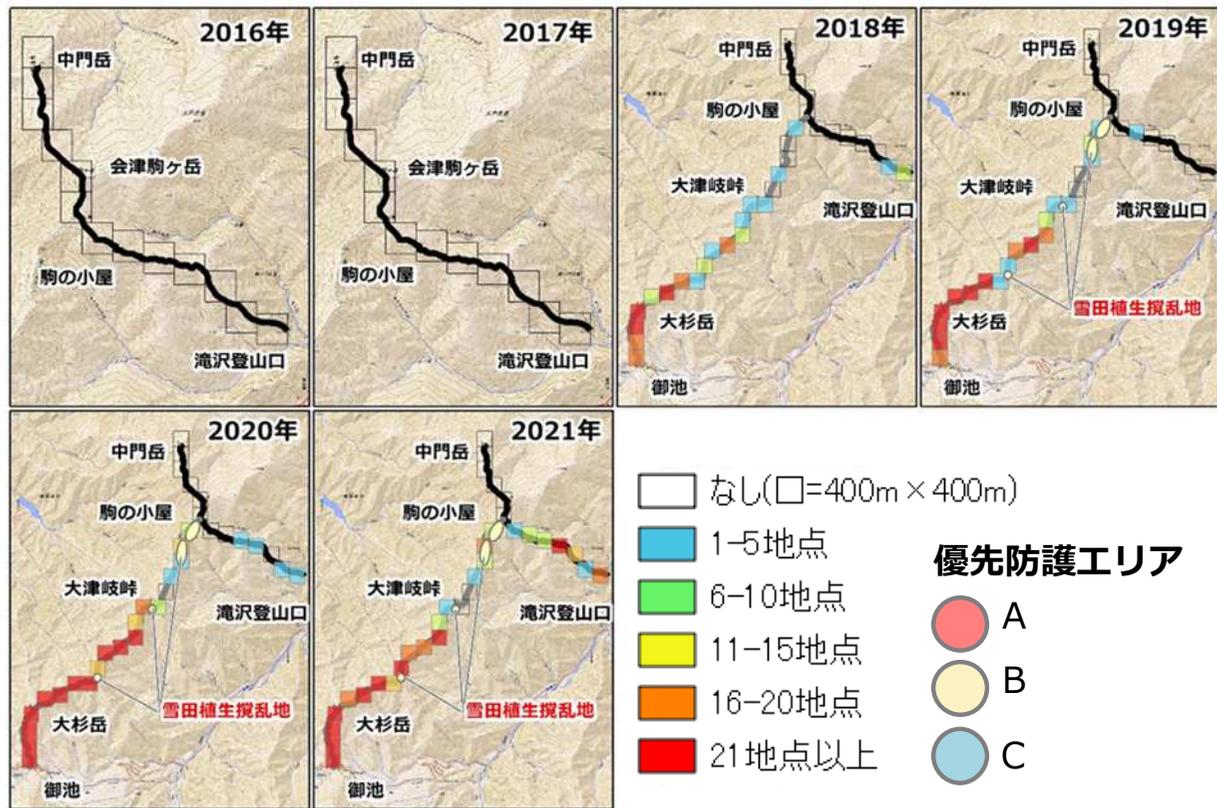




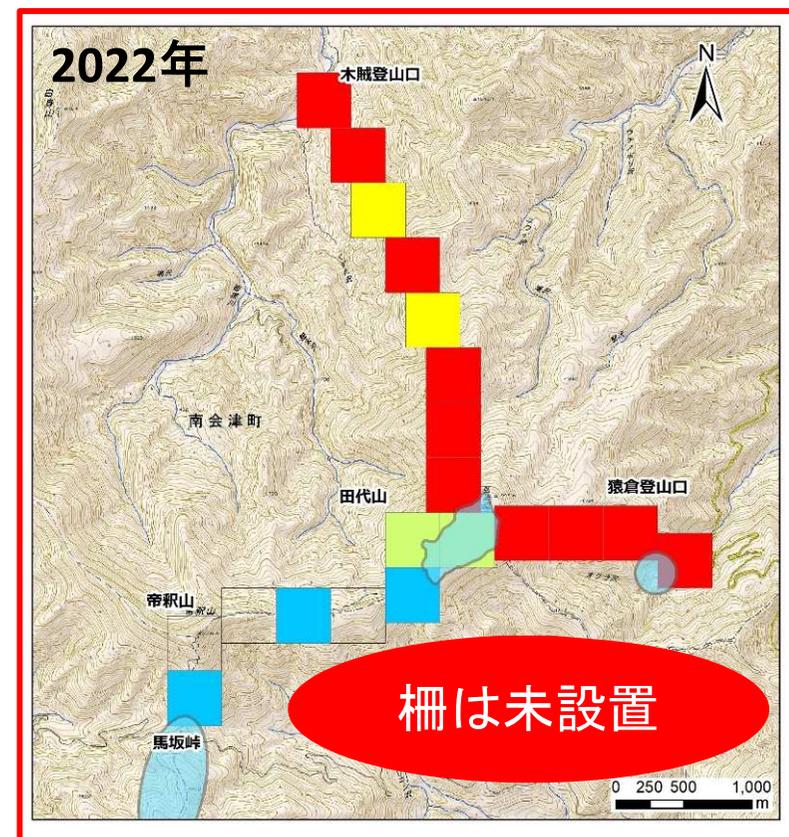
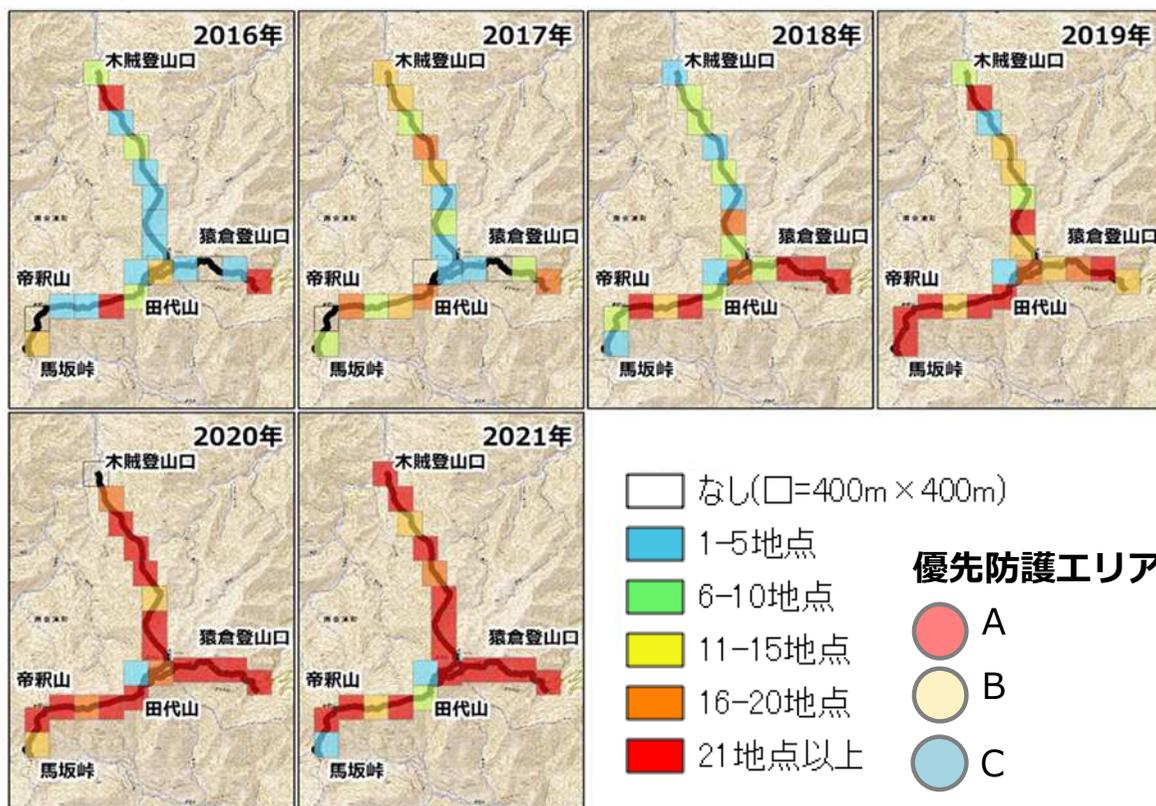
# 会津・田代 (分布拡大地域)

## 高山域における植生被害状況と対策（会津駒ヶ岳）

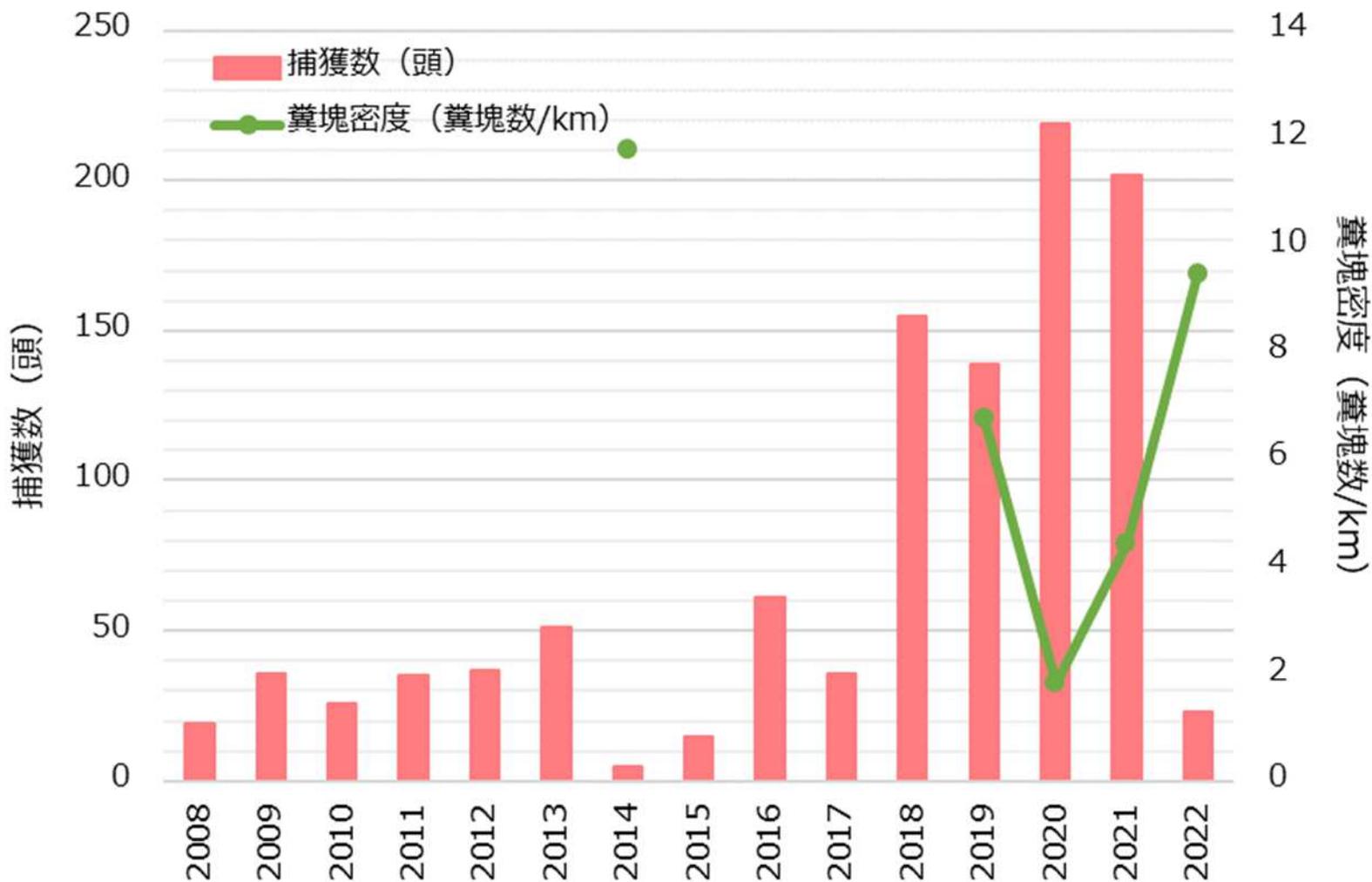
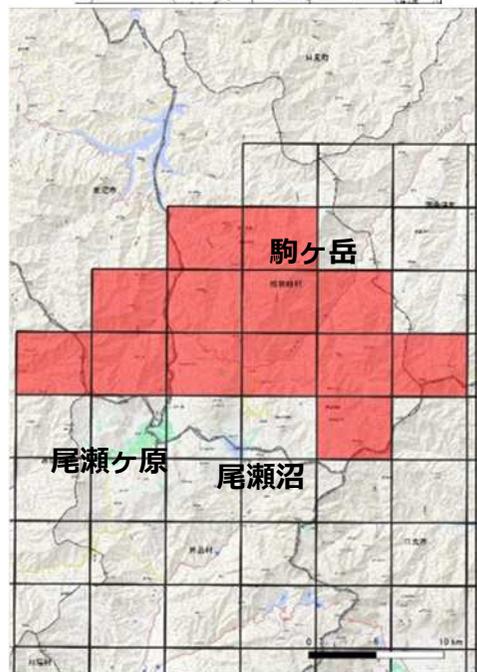
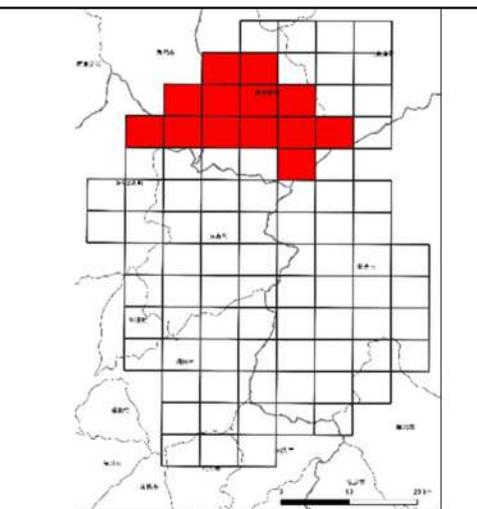
- 山頂湿原において初めて採食(コバイケイソウ)が確認。
- 大津岐峠～駒の小屋間では山頂付近での採食や掘り返しの増加が著しい。



- 田代山山頂～木賊登山口区間、猿倉登山口～田代山山頂区間で高い採食圧が継続。
- 山頂の田代湿原ではミズバショウの採食が増加。

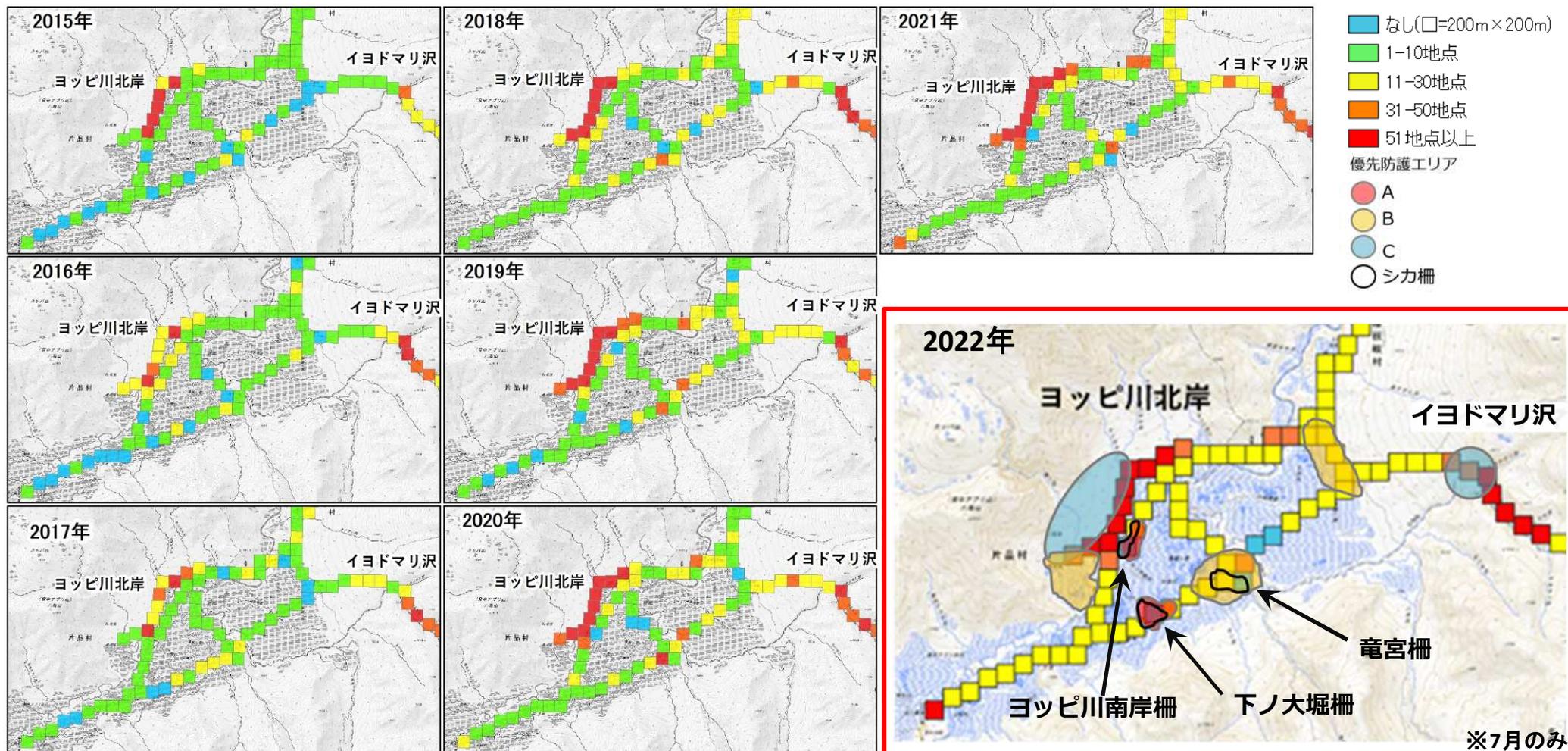


- 分布拡大地域での捕獲数は、2018年から急激に増加し、近年増加傾向だったが、2022年度は激減した。
- 糞塊密度は、昨年度から倍増している。



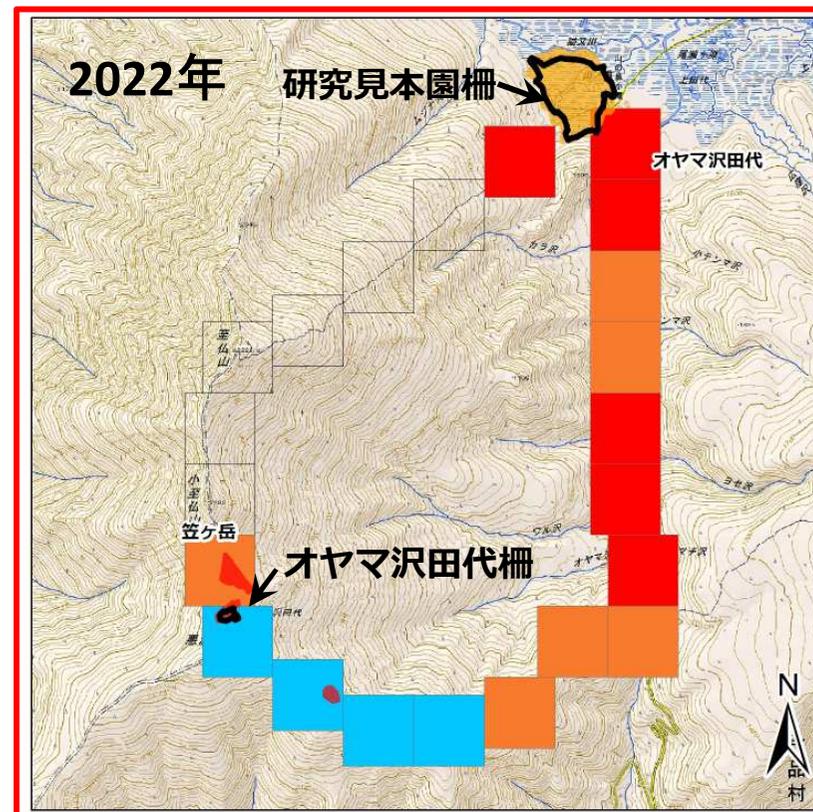
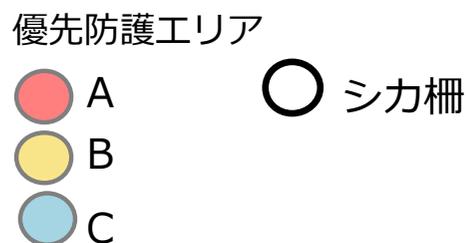
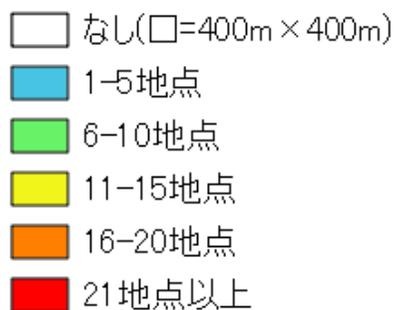
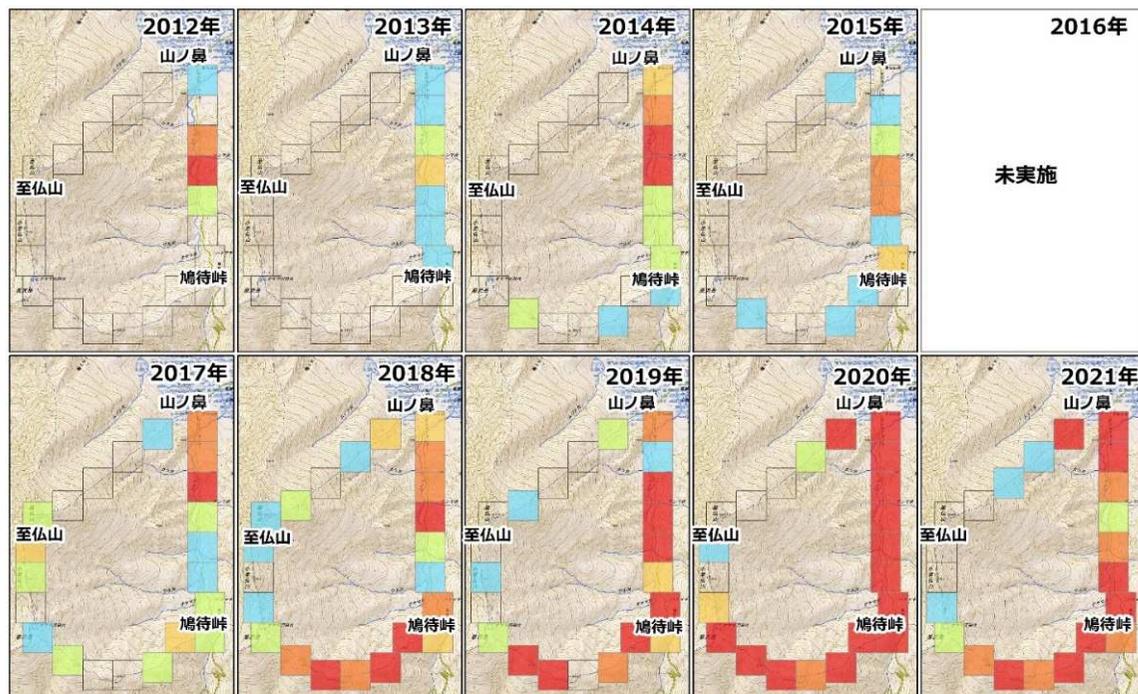


- ヨッピー川北岸、白砂峠～イヨドマリ沢間で高い採食圧が継続。
- 2022年は尾瀬ヶ原湿原の採食地点数が増加。



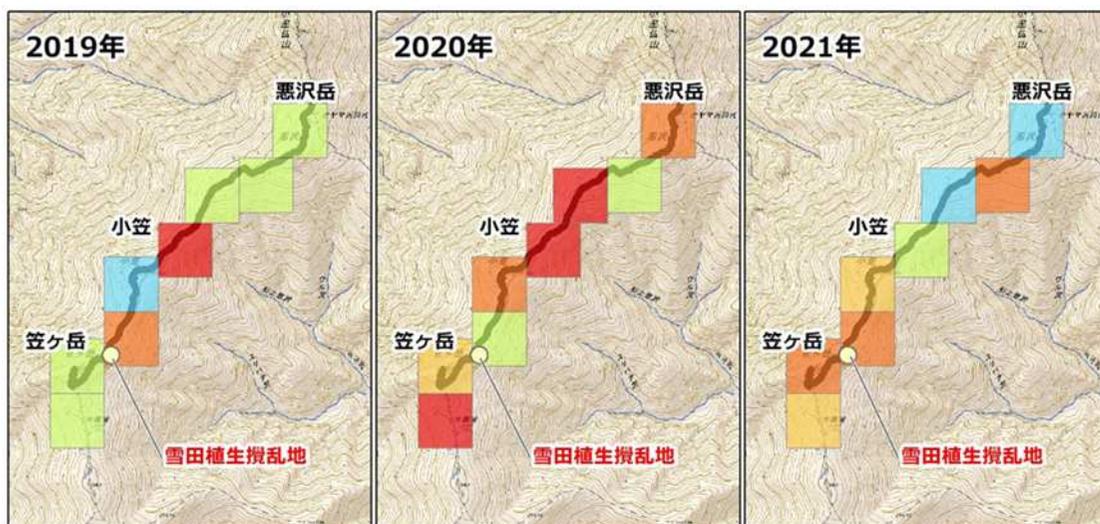


- 低標高エリアでは高い採食が継続。
- オヤマ沢田代付近は採食が集中しているが、その他の高標高エリアは採食が減少。





- 採食確認地点数はやや減少。
- 笠ヶ岳周辺(Aランク)では採食地点数が多く広範囲の掘り起しを確認。



□ なし(□=400m × 400m)

□ 1-5地点

□ 6-10地点

□ 11-15地点

□ 16-20地点

□ 21地点以上

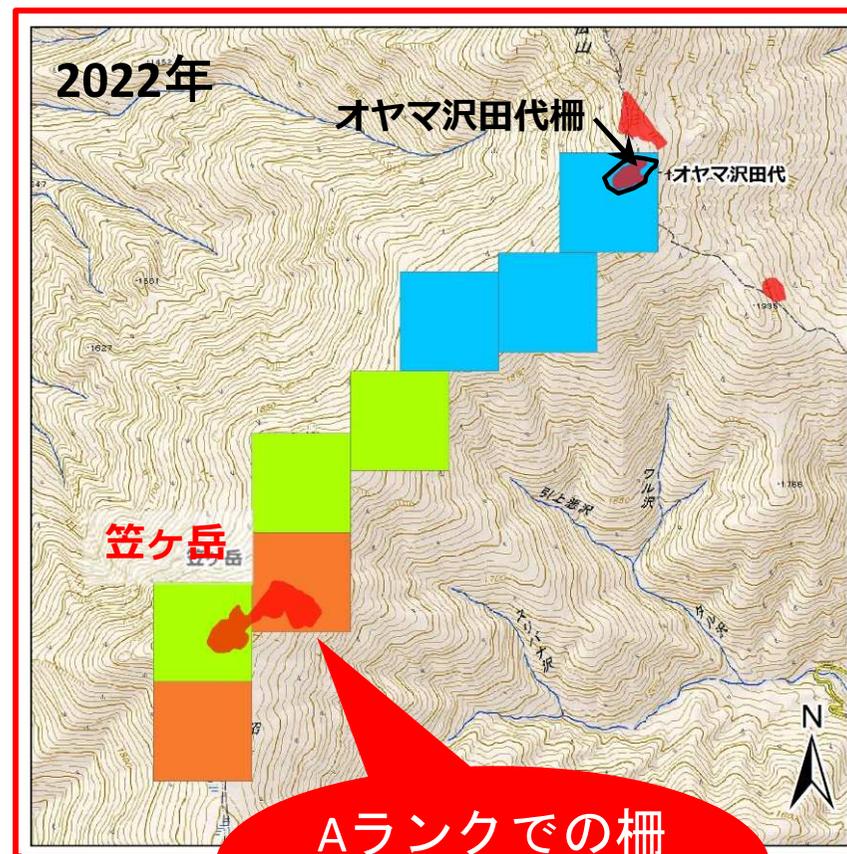
優先防護エリア

● A

● B

● C

○ シカ柵



Aランクでの柵未設置



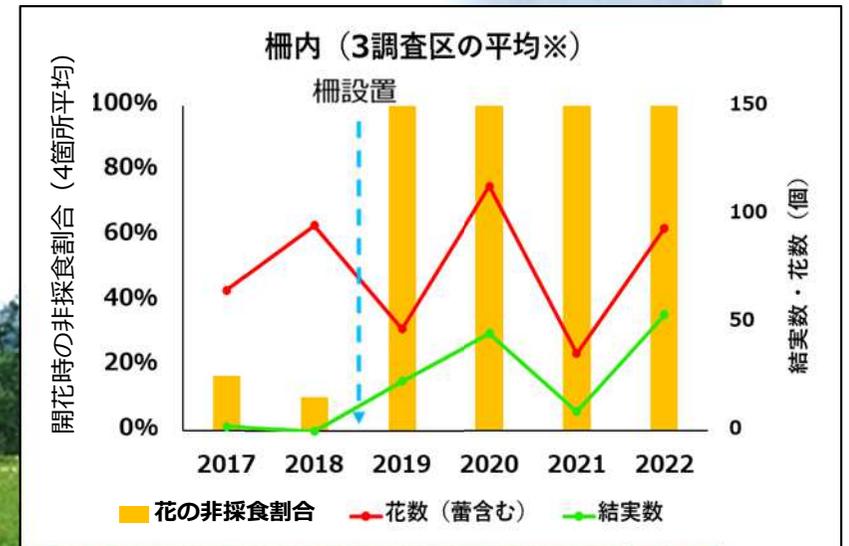
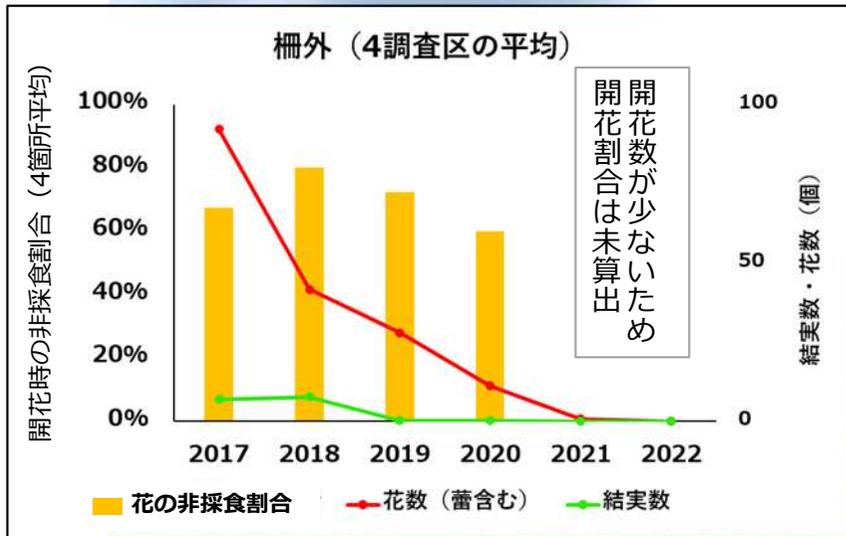
# 尾瀬ヶ原 植生保護柵設置の効果 (ヨッピー川南岸) 湿原

- 柵外では花数が激減し、2021年度以降開花はほぼ確認されない。
- 柵内では花数が顕著に多く、設置以降花は採食されていない(非採食割合100%)。

## 柵外

## 柵内

※2017・2018年は1調査区のデータを利用

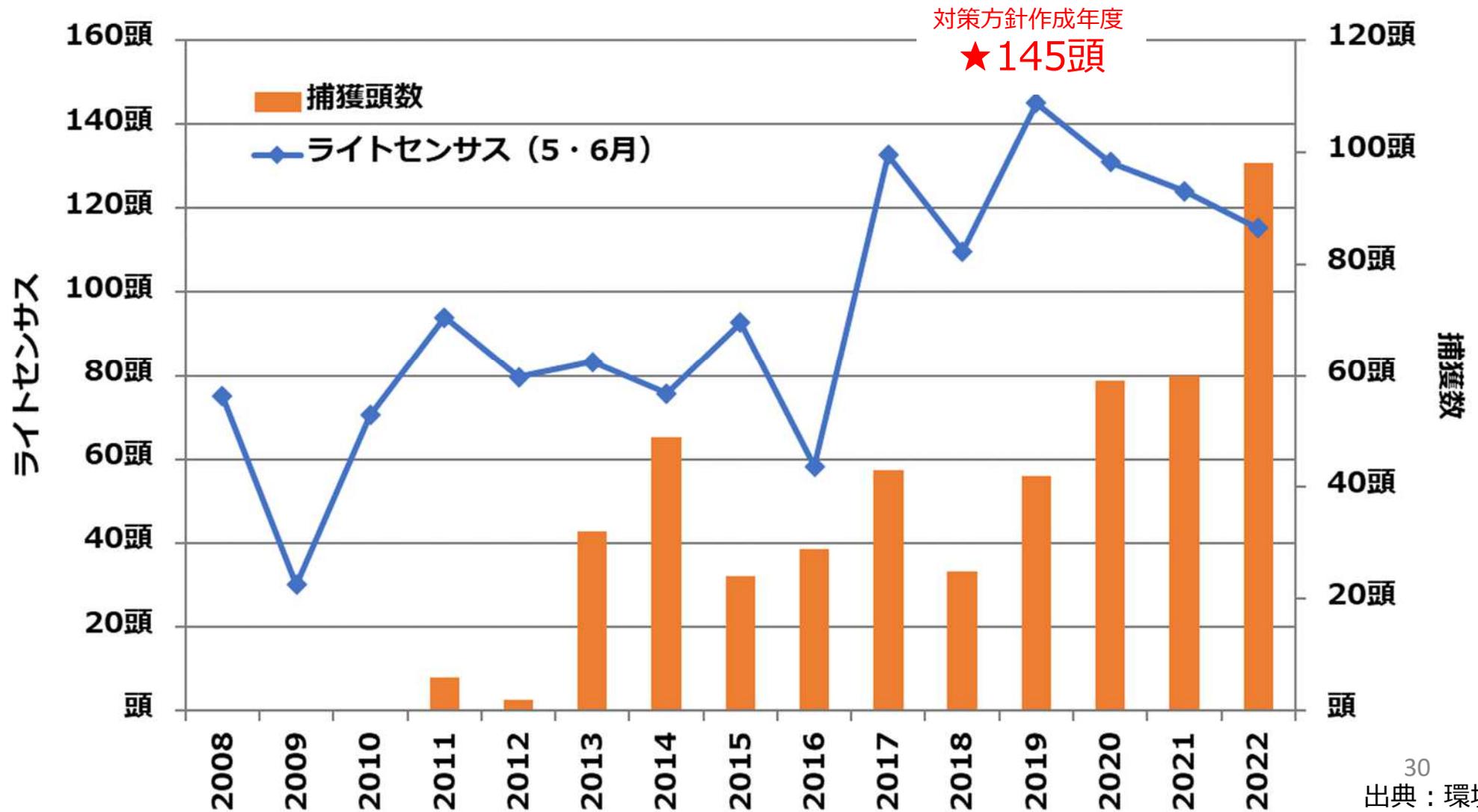


花の非採食割合100%  
(花の採食なし)



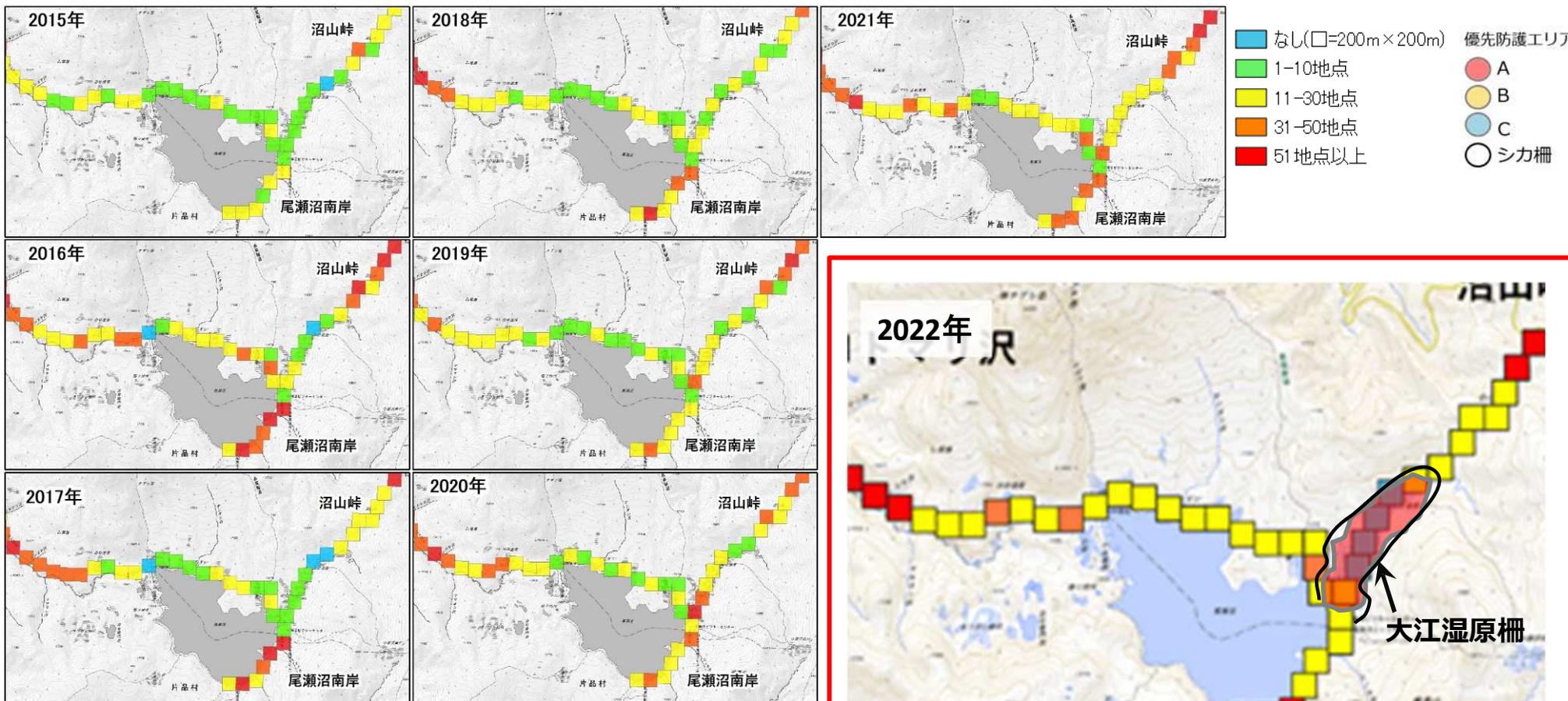
- 尾瀬ヶ原での捕獲数は2013年以降増減を繰り返しているが、近年は増加傾向。  
※2022年過去最高
- 5・6月のライトセンサスの平均確認頭数は増加傾向であったが、近年やや減少。

### 捕獲頭数と平均確認個体数の推移





- 林内の採食確認地点数は増加傾向。
- 林内ではディアラインの形成や草本の矮小化が確認されている。

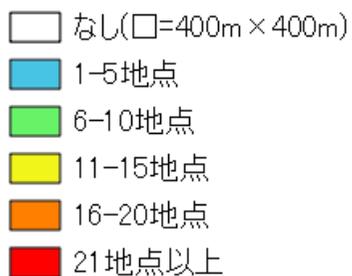
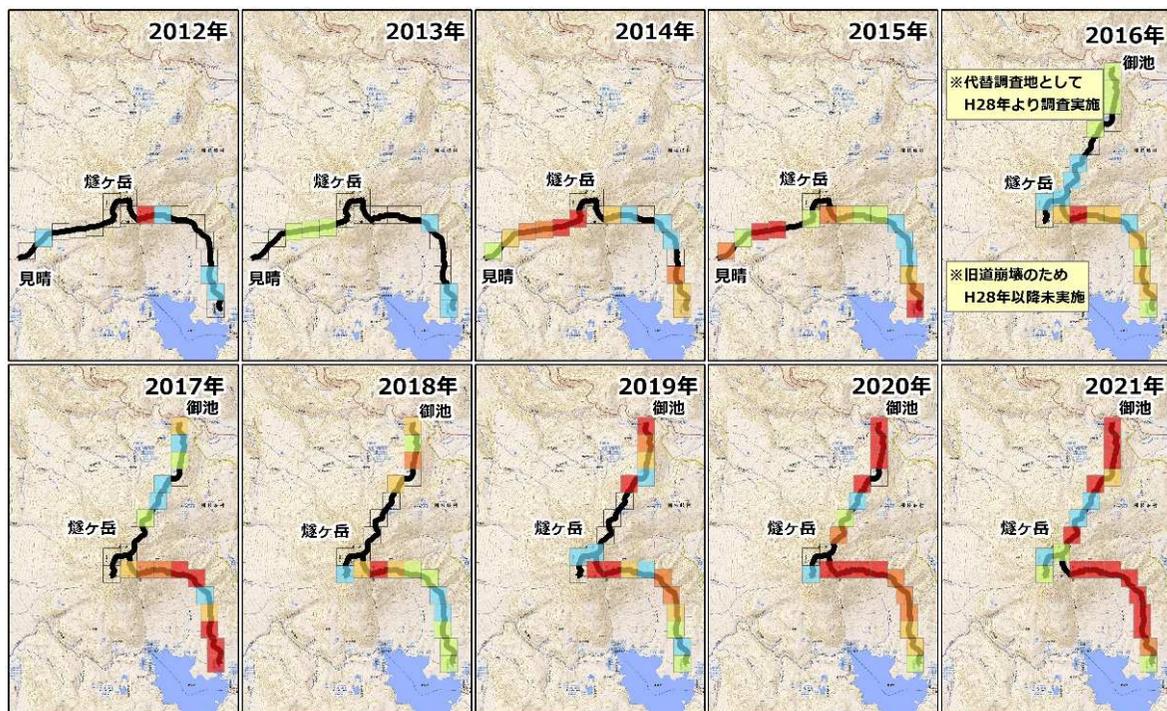


※調査は毎年柵設置前に実施

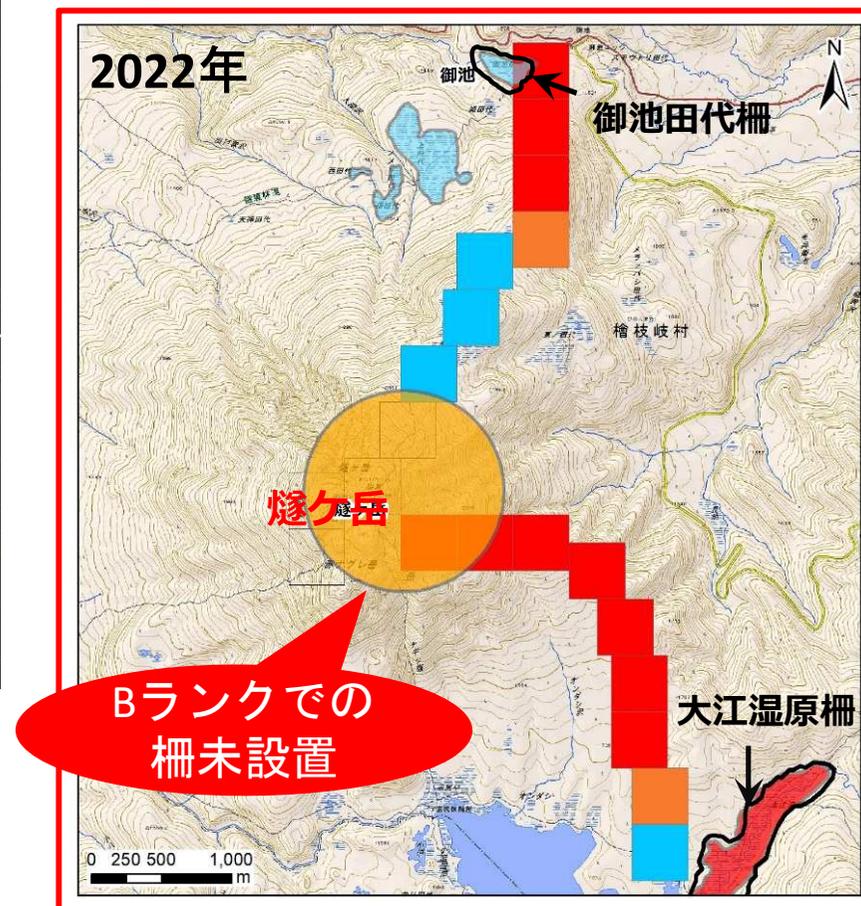
※7月のみ



- 山頂直下(尾瀬沼方面)では高い採食圧が継続している。
- 2021年度以降キヌガサソウは個体確認できず。
- 御池付近の採食地点数は増加傾向。



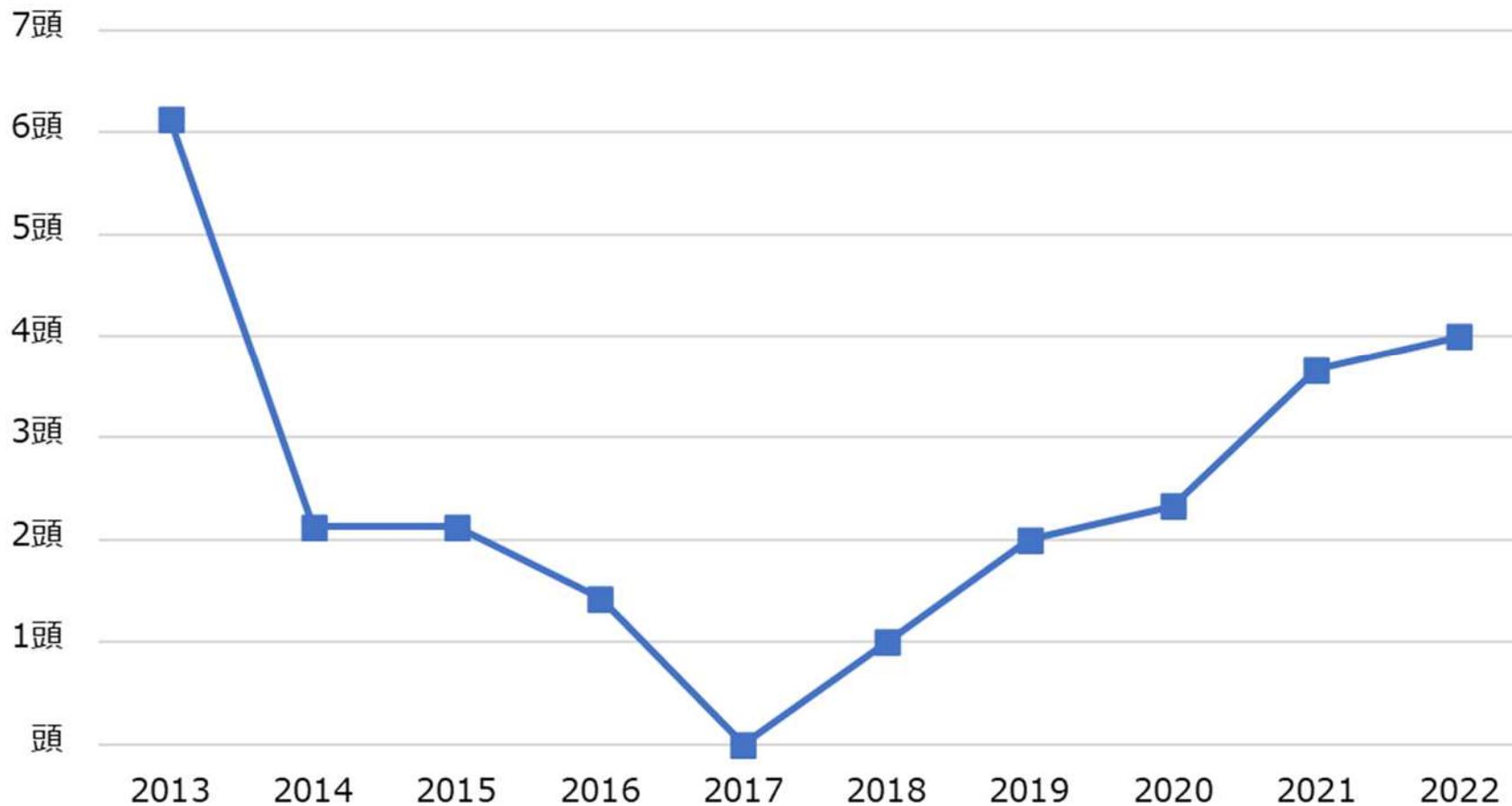
優先防護エリア





- ライトセンサスでは、柵設置期間中のシカの侵入が近年増加傾向。  
→柵の対策強化が必要。

柵設置後（6月下旬以降）のライトセンサスにおける平均確認頭数



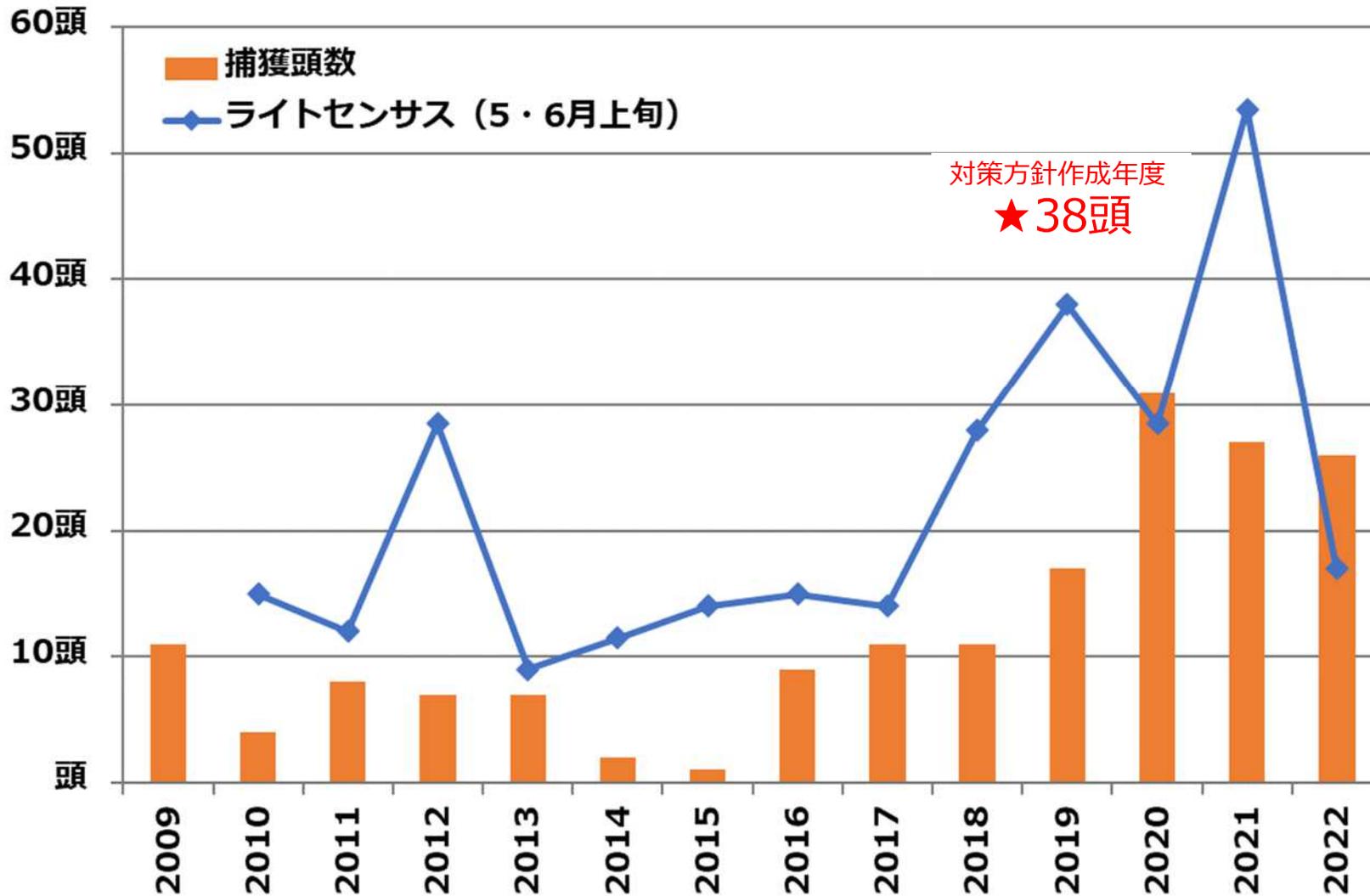
↑  
柵設置開始

※6月下旬に柵設置が完了したため、7月以降のデータを使用



- 尾瀬沼での捕獲数は2016年以降増加傾向であったが、近年は横ばい。
- 5～6月上旬（大江湿原柵設置前）のライトセンサスの平均確認頭数は、2022年は17頭と激減した。

### 捕獲頭数と平均確認個体数の推移



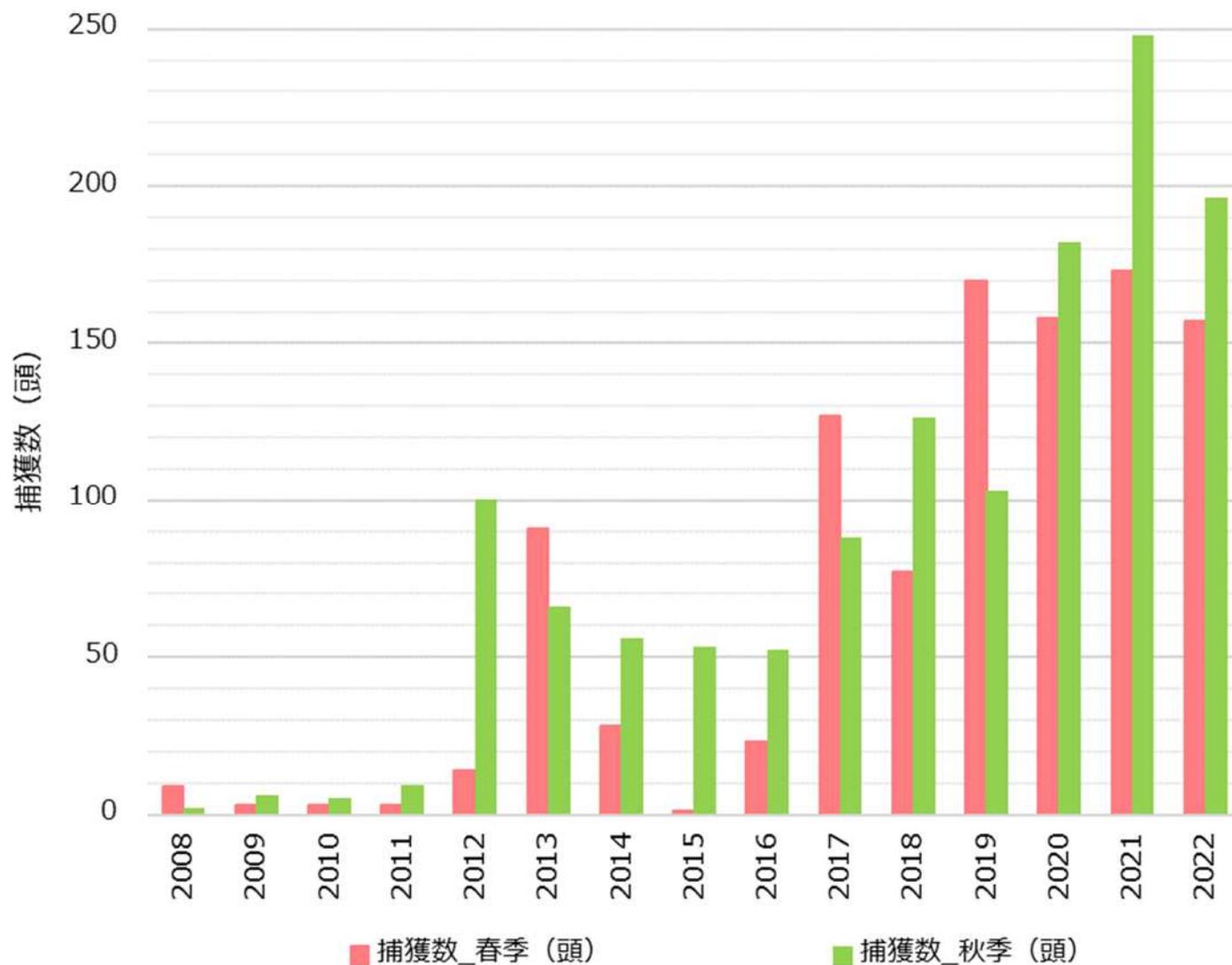
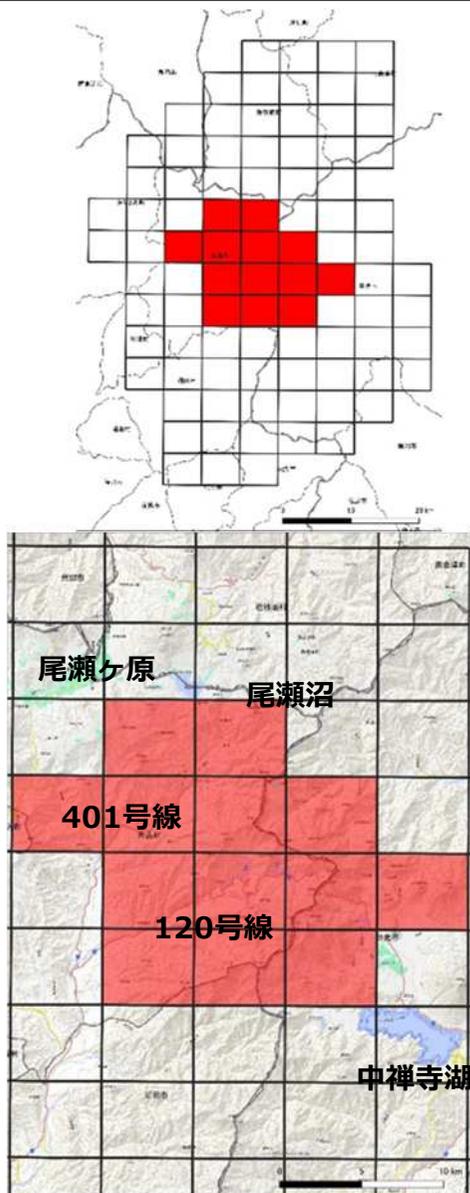


# 片品・檜枝岐

(季節移動経路)

## 捕獲数の推移

- 季節移動経路での捕獲数は春季（3～5月）、秋季（10～12月）ともに増加傾向。  
※2021年度過去最高



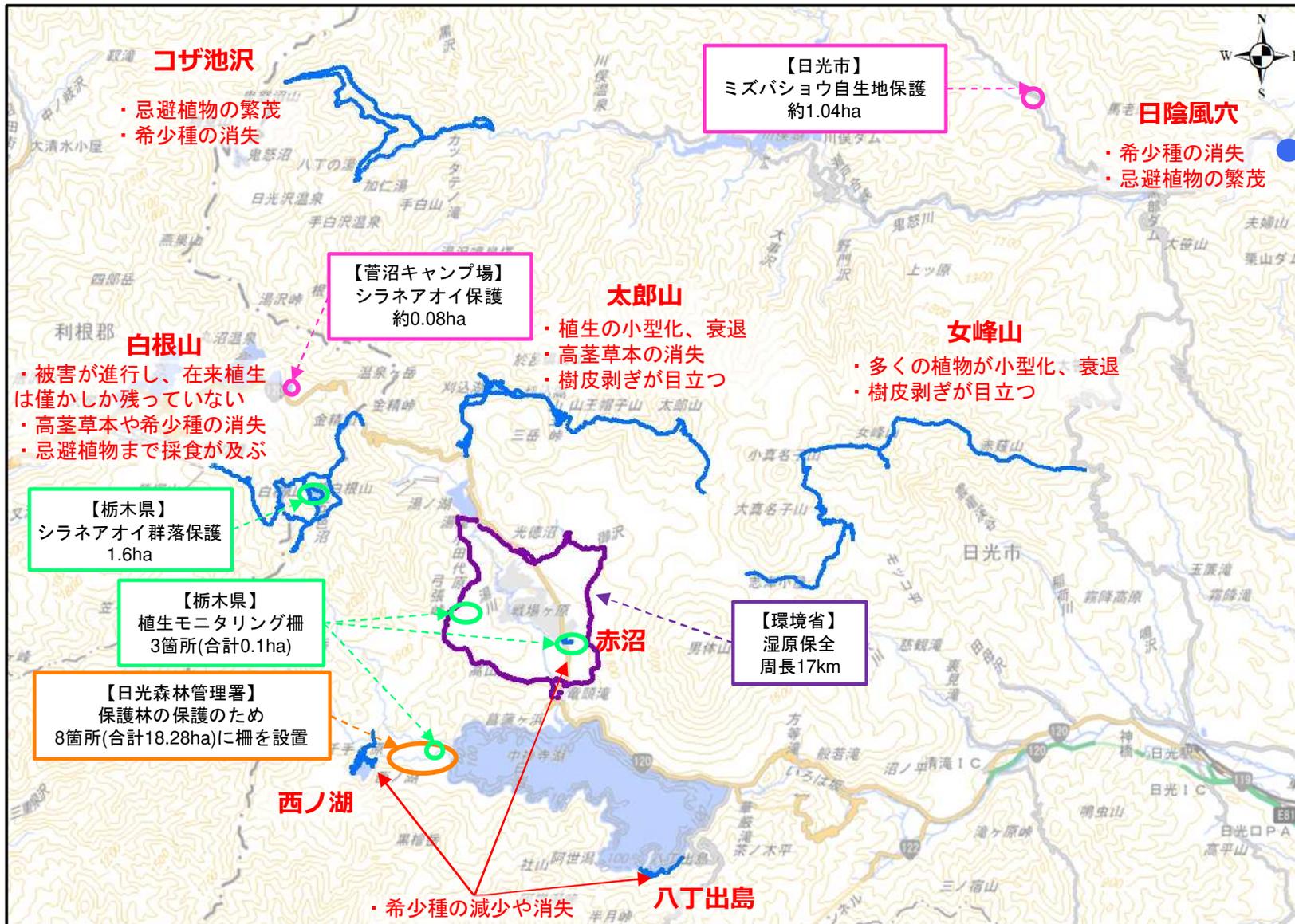
※捕獲数は、一部主たる越冬地と重複。



# 奥日光・足尾

## 植生被害状況と対策

- 日光・足尾周辺ではシカの食害が進行、在来植生が大きく変化し、高茎草本や希少種の減少や消失が確認されている。



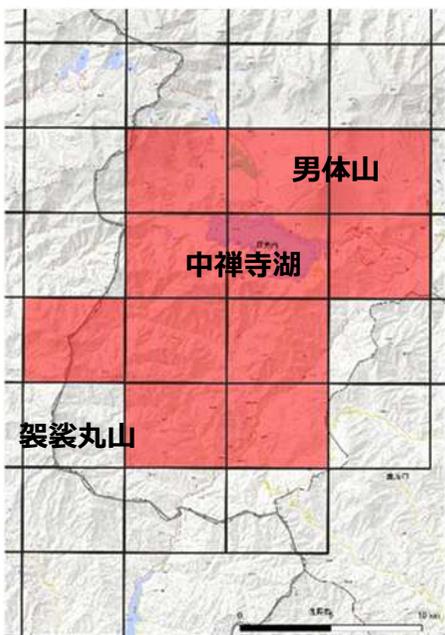
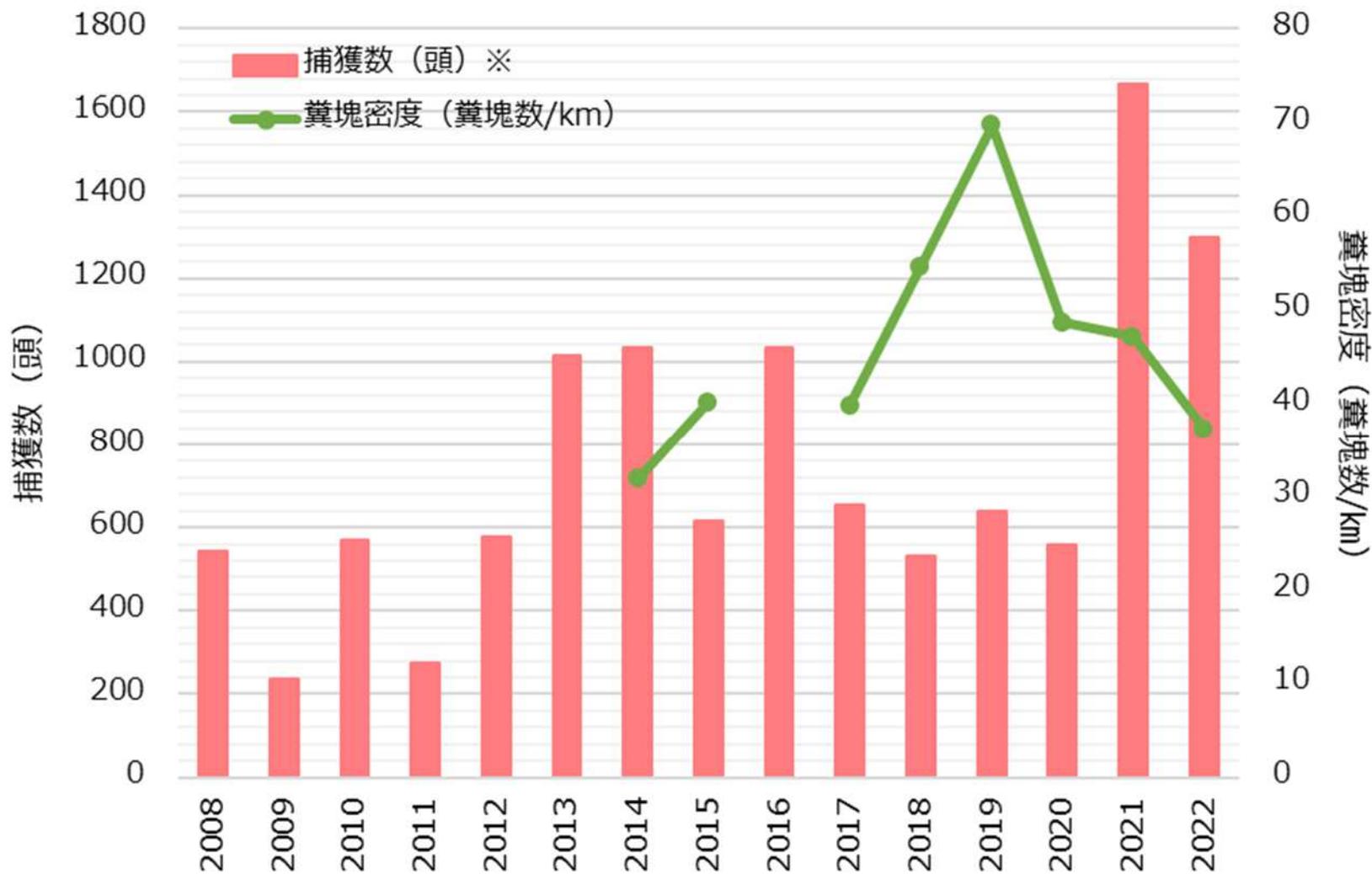
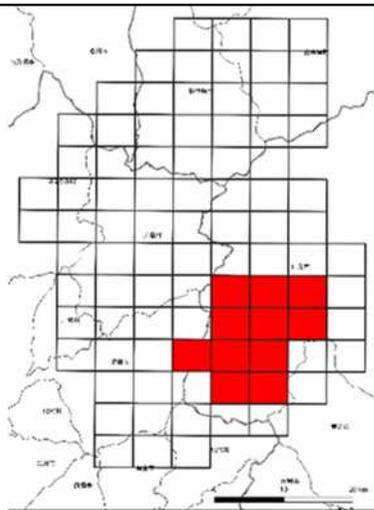
- 調査箇所
- 栃木県植生保護柵
- 林野庁植生保護柵
- 環境省植生保護柵
- その他植生保護柵



# 奥日光・足尾 (主たる越冬地)

## 捕獲数と生息状況の推移

- 主たる越冬地での捕獲数（12～3月）は、2014年度をピークに減少傾向であったが、2021年度に急増し、2022年も高い捕獲数を維持。
- 糞塊密度は近年減少傾向。



※捕獲数は、一部季節移動経路と重複。

# 2023（令和5）年度対策実施状況

2023(令和5)年7月25日

尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会

# 2023（令和5）年度対策実施状況

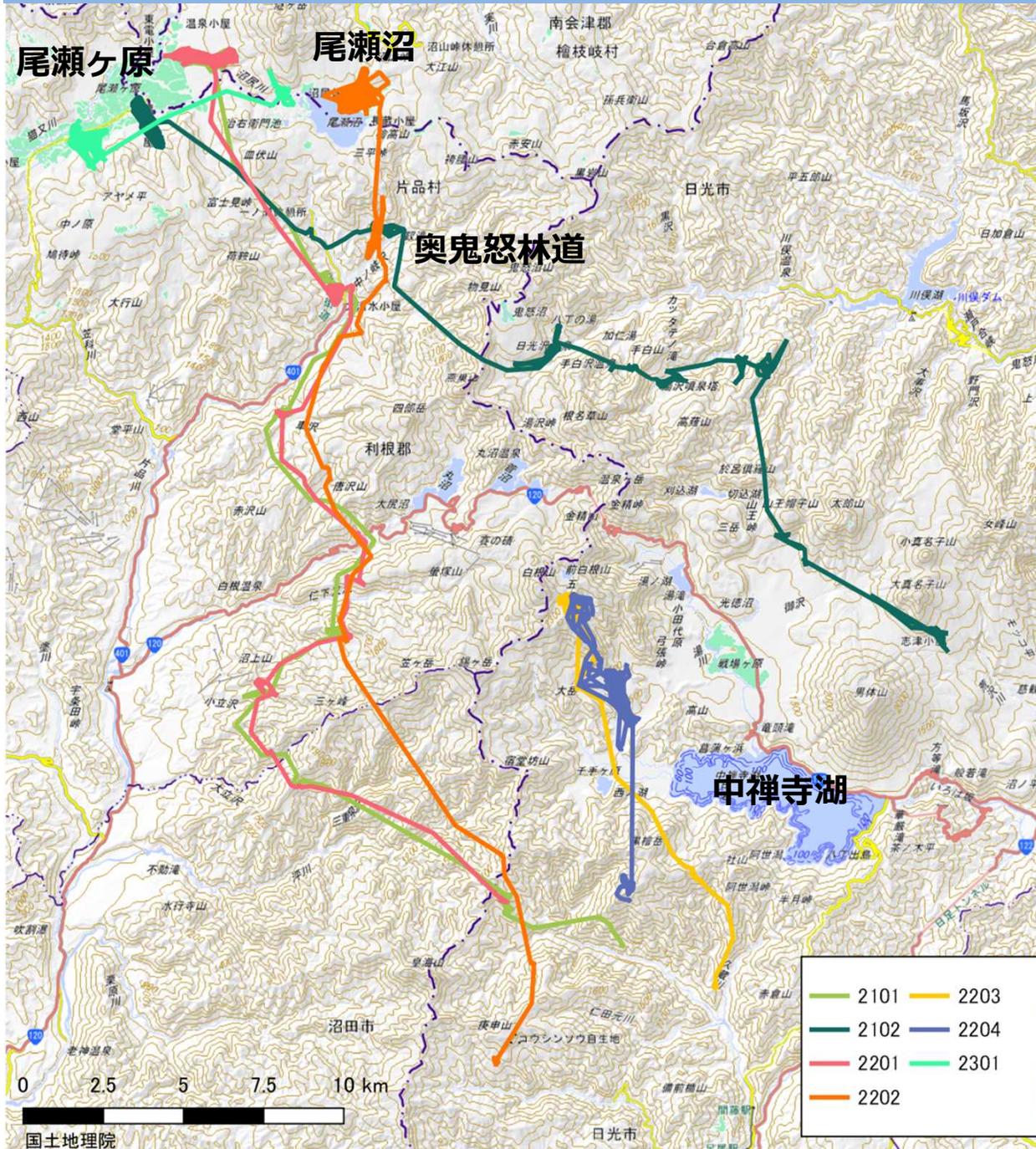
当年の対策状況の共有を目的に、2023年度すでに行われている調査と対策の状況を、特に2023年度の重点方針に関係が深い事業のうち、トピック形式で紹介する。

- 結果がまとまっているモニタリング調査
- 新たな挑戦や工夫を実施した事業
- 近年開始され、成果が伸びているが、これまで協議会全体に十分共有されていなかった事業

という観点で、各地域から抽出した。

2022年度 重点方針の実施状況 ・ 2023年度 重点方針			
	日光国立公園	尾瀬国立公園	その他共通事項
2022年度 重点方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>高標高域、地帯距離地域での捕獲の強化・継続。</li> <li>夏季の定住個体を対象とした捕獲を地域主体で効果的に実施。</li> <li>日光取の帯先防護エリア案を作成を検討する。</li> <li>夏季の定住個体に設置したGPS首輪調査で把握した夏季定住地、移動経路や越冬地における最適な捕獲の検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺の捕獲の強化・継続（捕獲期間の検討、六共保護湖周辺（河野林）での捕獲の実施など）。</li> <li>通信機能付きカメラを利用したリアルタイムの移動状況の共有による移動経路上での捕獲の強化・継続。</li> <li>帯先防護エリアのA・Bプランクに防護網の設置・維持・検討。</li> <li>帯ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、常釈山周辺の帯先防護エリアに防護網の設置を検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>捕獲目標数は捕獲実績、対策方針を踏まえて設定。</li> <li>効果的・効率的な防護網の設置・維持管理の手法に関する検討・情報共有。</li> <li>出張カメラマン（指定管理・有害捕獲）の普及。</li> <li>防護網や帯先防護エリア、過去の季節移動経路等の位置情報をGISに集約し、協議会構成員で共有する。</li> </ul>
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な越冬地である足尾地域での捕獲は、高標高域を含め雨水が種別的に実施している。</li> <li>日光市が研究会に委託して、季節移動個体を対象とした観測性の高い捕獲を実施し、成果を上げている。</li> <li>帯先取の越冬捕獲状況を踏まえ、対策の範囲に向けて共同林が迅速に動き始めている。</li> <li>奥日光（太郎山、女峰山、白根山）の越冬の調査状況調査を実施している。</li> <li>2021年初めて白根山でのGPS調査を実施。2022年にもつ2回調査予定であり、これにより越冬地や移動経路が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季の帯先防護では捕獲時期に人員を集中的に配置し越冬個体の捕獲数となった。通信機能付きカメラでは、モニタリングリストを使用した撮影距離のリアルタイムの共有を実施している。移動経路上での捕獲は増加の傾向がみられている。</li> <li>田代山にて捕獲を開始した。</li> <li>帯先防護の帯先防護エリア・Bプランクについて協議会構成員と現地関係者を通じて各エリアの方針を検討している。</li> <li>帯ヶ岳は設置に向けた準備調査等実施している。会津駒ヶ岳、田代山、常釈山周辺の捕獲の調査の可能性と各所の方針を協議している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境省が対策方針範囲内の個体数のベース設定を実施し、半減目標達成に必要な捕獲努力量を試算した。</li> <li>各周内では協議会や現地関係者を通じて防護網についての情報交換が促進されている。</li> <li>出張カメラマン（指定管理・有害捕獲）は一部で運用している。</li> <li>過去の季節移動経路等の位置情報をGoogleマイマップにて共有開始した。</li> </ul>
2023年度 重点方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>主たる越冬地である足尾における冬季の捕獲を強化する。</li> <li>奥日光における地域主体で観測力の高い捕獲を継続・促進する。</li> <li>越冬捕獲状況調査の結果を元に奥日光での定住個体のあり方を検討する。</li> <li>夏季の定住個体に設置したGPS首輪調査で把握した夏季定住地、移動経路や越冬地における最適な捕獲の検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>尾瀬ヶ原・尾瀬沼において、捕獲場所や捕獲時間を工夫するなど、より効果的な捕獲方法を検討する。</li> <li>田代山の捕獲を強化する。</li> <li>帯先防護エリアのA・Bプランクの各所の方針の具体化と活用をする。</li> <li>会津駒ヶ岳、田代山、常釈山を協議会で現地視察し、カメラ等のモニタリングを開始する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日光と尾瀬、両国立公園を行き来する移動経路上での捕獲の強化をする。</li> <li>効果的・効率的な防護の方法・維持管理について共有する。</li> <li>移動経路上に通信機能付きカメラを広範囲に設置しシマの動きを捉えやすくする。</li> <li>Googleマイマップに位置情報を集約・五元し、協議会構成員で共有する。</li> </ul>

# 2023年春の移動状況（GPS追跡）



- 尾瀬で装着した4個体は、すべて奥鬼怒林道を通る。
- 白根山での装着個体は、尾瀬地域の個体同様、足尾で越冬していることが確認された。
- 2301は、尾瀬ヶ原の牛首周辺で捕獲。

個体	移動開始	移動終了
2101	2/27	4/30
2102	3/6	5/1
2201	3/12	5/17
2202	3/24	5/5
2203	5/25	6/2
2204	5/4?	6/12
2301	5/5 (装着日)	—



# 越冬地

(奥日光・足尾)

## ICTによる捕獲成果

- 2021年度から実施している足尾の囲いわなは、ICTを活用して効率的に捕獲ができている。(2021年度：45頭、2022年度：50頭)

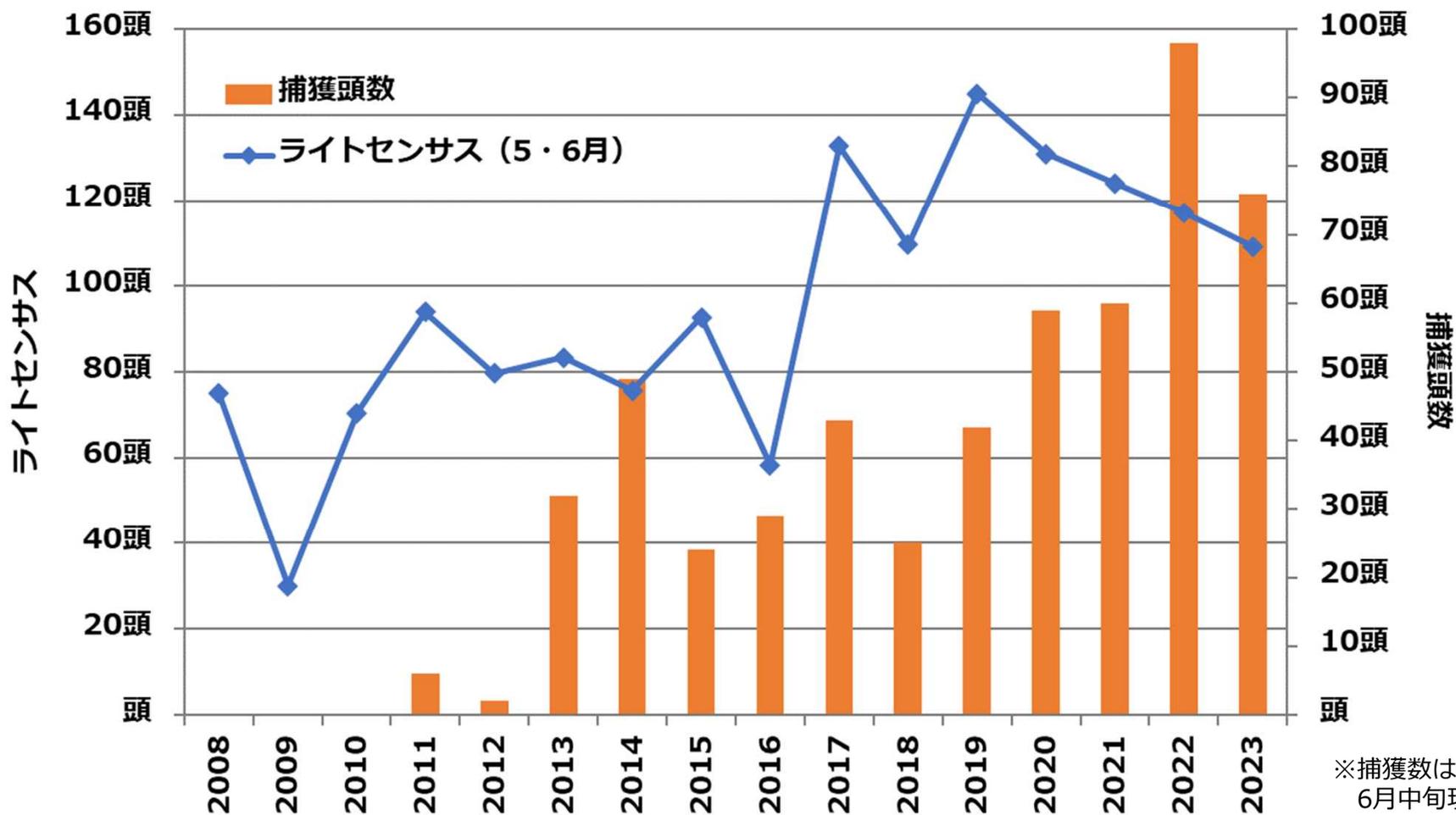




# 捕獲効果

- 2023年度は捕獲頭数が過去2番目に多かった。
- 5・6月のライトセンサスの平均確認頭数は増加傾向であったが、2019年以降やや減少。

### 捕獲頭数と平均確認個体数の推移



※捕獲数は  
6月中旬現在

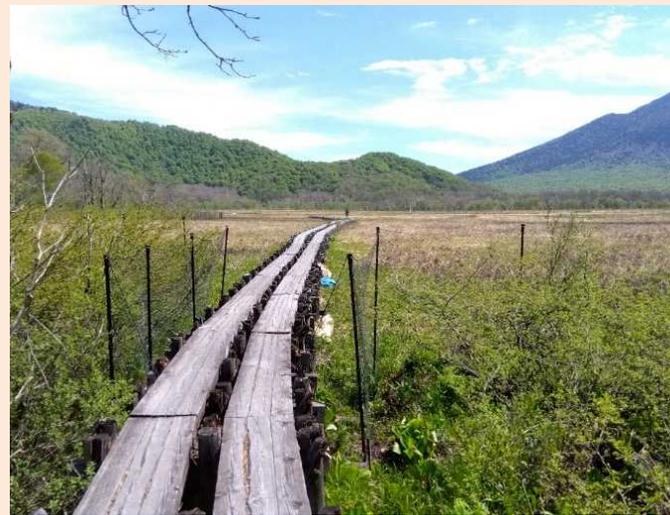


# ヨツピ南岸の柵更新

- ヨツピ南岸の柵の更新が完了。
- 漂流物によってネットが埋まり、柵の高さが低くなっていたが改善された。



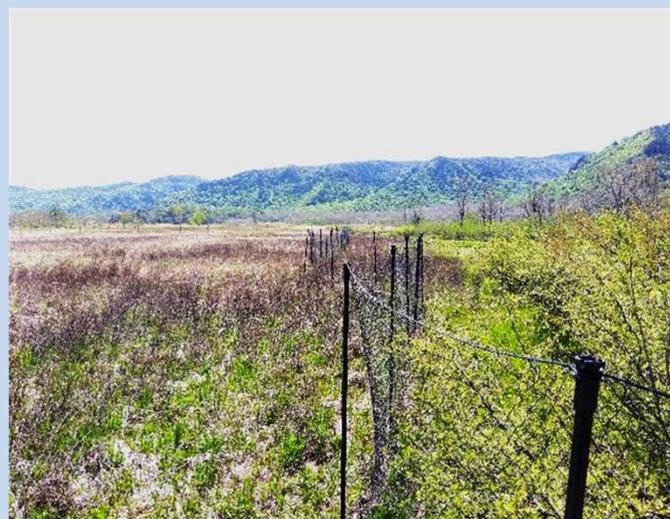
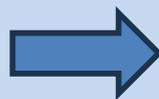
設置の様子



設置完了



更新前 (2022年5月27日)



更新後 (2023年5月30日)



尾瀬ヶ原・尾瀬沼  
(尾瀬ヶ原)

# ボランティアとの連携による柵設置 (研究見本園)

- 群馬県と尾瀬保護財団が、尾瀬ボランティア及び企業ボランティアと連携し、研究見本園に短期間で植生保護柵を設置。



出典：尾瀬保護財団

←植生保護柵設置作業の様子

↓植生保護柵の様子

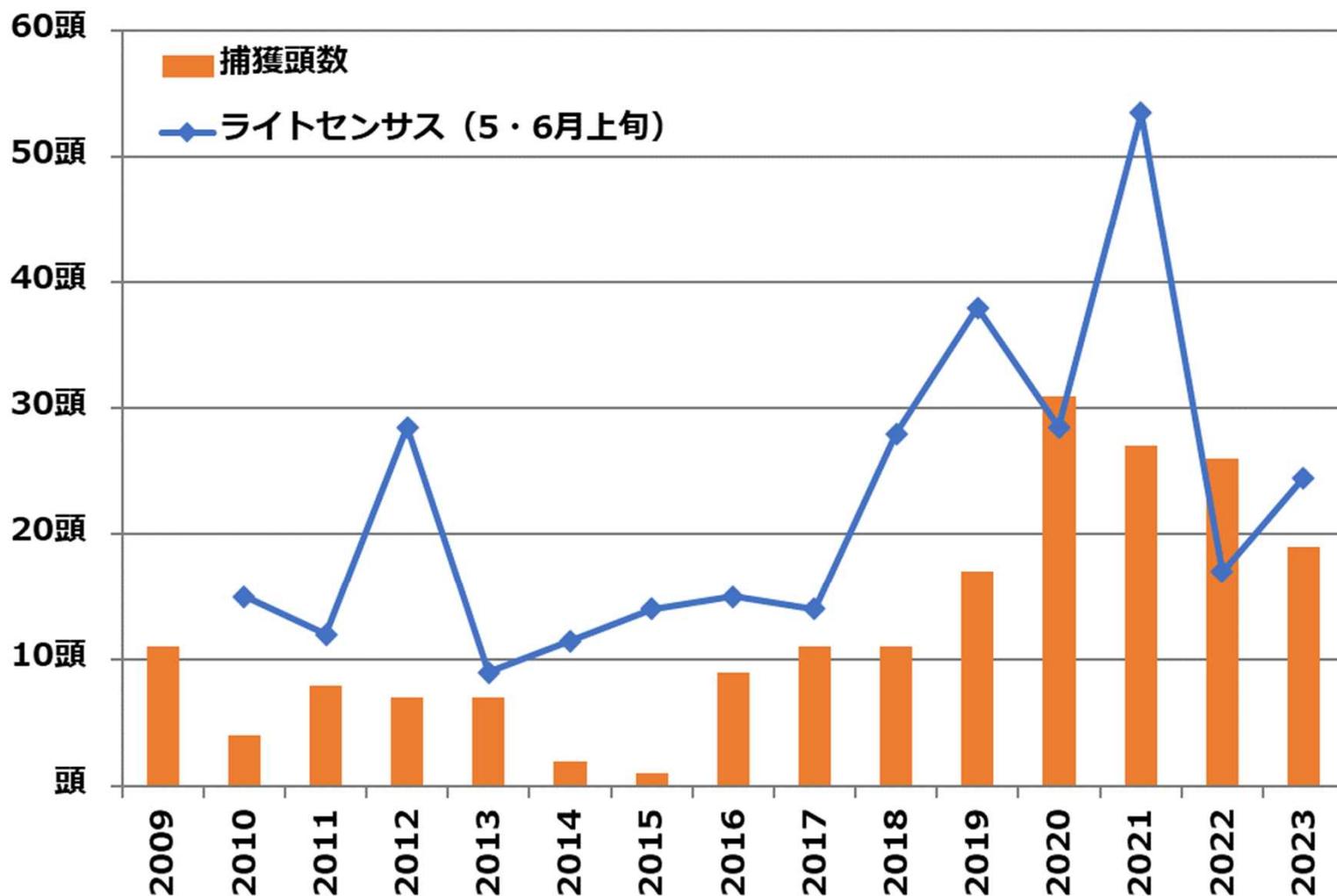


出典：群馬県



- ライトセンサスによる確認頭数は、2019年度と比較し減少している。
- 2023年度は捕獲機会を得やすいところに、数週間空けて捕獲を行っている。

## 捕獲頭数と平均確認個体数の推移



※捕獲数は  
7月上旬現在<sup>8</sup>



# 鬼怒沼 (季節移動経路)

## 最新の対策状況

- シカの影響が急激に顕在化してきたことを受け、2022年度緊急避難的措置として関係機関によりシカ柵を自前設置（資材運搬、柵設置等）した。
- 今年度はさらに対策を強化し、関係機関による柵の設置・指定管理捕獲・定点カメラ調査・GPS首輪装着（8月予定）を実施している。



柵設置の様子



定点カメラ設置



くくり罠捕獲の様子

- 2023年度より、田代帝釈でのカメラ調査を開始。
- 現地では、シカによる採食痕や踏圧が確認された。



2023（令和5）年度 重点方針の実施状況・2024（令和6）年度 重点方針（案）

	2023年度重点方針	進捗状況	現状の課題	2024年度重点方針
日光 国立公園	<p>主たる越冬地である足尾における冬季の捕獲を強化する。 奥日光における地域主体で機動力の高い捕獲を継続・促進する。</p> <p>植生被害状況調査の結果を元に奥日光での植生防護のあり方を検討する。</p> <p>夏季の定住個体に装着したGPS首輪調査で把握した夏季定住地、移動経路や越冬地における最適な捕獲を検討する。</p>	<p>(栃・日) 足尾における捕獲は例年通りに継続している。 (日) 奥日光における地域主体の機動力の高い捕獲を今年度も継続している。 (栃) 千手ヶ原にて新たに季節移動個体を対象とした捕獲を予定している。 (環) 白根山にて新たに夏季定住個体の捕獲を予定している。 (環) 植生被害状況調査の結果を元に対策優先度の検討を開始。</p> <p>(林・環・栃・日) 鬼怒沼において柵の設置、シカの捕獲、GPS追跡調査やカメラによる生息状況調査などの事業を関係機関が一丸となって開始した。 (環・栃) 夏季の定住個体の移動経路や越冬地がわかってきた。</p>	<p>(栃・日) 捕獲効率の良い越冬地での捕獲や、奥日光における地域主体での機動力の高い捕獲の実施を継続する必要がある。</p> <p>(環) エリア毎の対策優先度の考え方について共有と運用が未実施である</p> <p>(全) 日光白根山の夏季の定住個体の移動経路や越冬地が尾瀬と同様と分かったため、主たる越冬地での捕獲の継続が必要なのが確認された。 (環) 夏季定住個体の移動経路を特定しなければならない個体群がまだ存在する。</p>	<p>(栃・日) 主たる越冬地での捕獲を継続する。 (日) 奥日光における地域主体での機動力の高い捕獲を継続する。</p> <p>(全) 奥日光における植生保護の考え方、対策優先度について検討する。</p> <p>(環) 夏季定住個体のGPS調査等による生態把握および効率的な捕獲方法の検討、捕獲の継続・強化。</p>
尾瀬 国立公園	<p>尾瀬ヶ原・尾瀬沼において、捕獲場所や捕獲時間を工夫するなど、より効率的な捕獲方法を検討する。 田代山の捕獲を強化する。</p> <p>優先防護エリアのA・Bランクの各所の方針の具体化と運用をする。</p> <p>会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山を協議会で現地視察し、カメラ等のモニタリングを開始する。</p>	<p>(環) 尾瀬ヶ原における薄明帯捕獲の実施に向けて実施計画の検討及び関係者調整を開始した。 (福) 田代山における捕獲期間を昨年度よりずらし、最適化をはかる。今後は捕獲強化につながる行動調査をする。</p> <p>(全) 2023（令和5）年度中に優先防護エリアABランクの9/11ヶ所に植生保護柵を設置完了予定。(全) 対策方針の改訂作業と併せて優先防護エリアの見直しを行う。</p> <p>(福・環) 会津駒ヶ岳、田代山において被害を与えるシカの行動把握のため、モニタリングを開始し、今後の被害抑制のための知見を増やす。</p>	<p>(全) 尾瀬ヶ原・尾瀬沼において事業目標である確認個体数の半減を達成するため更なる捕獲圧をかけなければならない。 (福) 田代山においてより捕獲を強化できる具体案がない。</p> <p>(全) 優先防護エリアABランクのうち見晴エリアのみ設置方針及び管理体制等が定まっていない（各所知見が集まりつつも完全な防除ができていない状況）。</p>	<p>(環) 尾瀬ヶ原・尾瀬沼における捕獲数向上を目指し、より効率の良い捕獲方法（薄明帯の捕獲など）を検討する。 (群) 移動経路上におけるモニタリングの継続及び同結果を活用した捕獲強化。 (福) 田代山の捕獲の継続とともにモニタリングの結果から捕獲手法の検討をする。</p> <p>(全) 見晴の柵の設置に向け関係各所連携する。各植生保護柵のより良い運用の知見を共有する。</p>
その他 共通事項	<p>日光と尾瀬、両国立公園を行き来する移動経路上での捕獲を強化する。</p> <p>効果的・効率的な防護の方法・維持管理について共有する。</p> <p>移動経路上に通信機能付きカメラを広範囲に設置しシカの動きを捉えやすくする。</p> <p>Googleマイマップに位置情報を集約・拡充し、協議会構成員で共有する。</p>	<p>(群・栃) 移動個体群について、春の捕獲は目標頭数に達成した。秋も捕獲の予定がある。</p> <p>(全) 尾瀬及び戦場ヶ原の植生保護柵は各所知見が集まってきている。</p> <p>(環) 通信機能付きカメラの増設したが適地が探せていない状況である。1地点でも多く適地を探る。</p> <p>(全)Googleマイマップの情報の更新と拡充を行っている。</p>	<p>(全) シカの侵入があり防護柵内であってもシカの影響を排除できていない。</p> <p>(全) リソース（資金、人員など）の配分についての検討がされていない。</p>	<p>(全) 既存防護柵の適切な管理により保護対象地へのシカの影響を排除する。</p> <p>(全) リソース（資金、人員など）の配分の最適化を検討する。</p>

凡例：（）内は主体を表す。（全）全体、（環）環境省、（林）林野庁、（栃）栃木県、（群）群馬県、（福）福島県、（日）日光市

色分けは 捕獲 植生保護 モニタリング その他

## 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針の見直しについて

- (1) 現行対策方針に基づく目標達成にむけた進捗・評価及び課題
- (2) 対策方針の目的及び最終目標の改正案
- (3) 今後の検討ポイント

時期	今後の協議会開催及び対策方針の見直しスケジュール	
2022 (R4) 夏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021年重点方針の評価</li> <li>・ 2022年重点方針の進捗</li> <li>・ 2023年重点方針の作成</li> <li>・ 対策方針（5カ年事業目標）の見直し準備 →課題の整理（フリーディスカッション） 2020年度から対策方針を進めてみての課題・意見 →現行対策方針で解決しそうな内容と次期対策方針にもかかわる内容に分ける</li> </ul>	
	現行対策方針	次期対策方針
2023 (R5) 夏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2022年重点方針の評価</li> <li>・ 2023年重点方針の進捗</li> <li>・ 2024年重点方針の作成</li> <li>・ 現行対策方針の進捗中間評価</li> </ul>	<b>次期対策方針の目的・最終目標—骨子—作成</b> 目的・最終目標・今後の検討ポイント対策の優先順位の確認
2023 (R5) 冬		<b>次期対策方針の詳細内容の決定</b> 捕獲・植生保護・モニタリング・その他 各課題の5か年のロードマップの共有
2024 (R6) 夏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2023年重点方針の評価</li> <li>・ 2024年重点方針の進捗</li> </ul>	<b>次期対策方針（5カ年事業目標）の策定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2025年重点方針の作成</li> </ul> ※2025年年度実施事業に次期対策方針を沿わせられるよう、夏の協議会で確定させる必要がある？
2025 (R7) 夏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2024年重点方針の評価</li> <li>・ 現行対策方針の評価</li> </ul>	<b>次期対策方針運用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2025年重点方針の進捗</li> <li>・ 2026年重点方針の作成</li> </ul>

※赤字は令和4年度協議会資料からの変更箇所

- (1) 現行対策方針に基づく目標達成にむけた進捗・評価及び課題
- (2) 対策方針の目的及び最終目標の改正案
- (3) 今後の検討ポイント



# 日光国立公園

	日光国立公園の目標 シカの生息条件下で成立した生態系	進捗・評価
最終目標	シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持	シカの生息密度健全な植生の維持更新に支障がない状態までは減っていない。
(5年事業目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 植生への影響を低減するため、<b>シカの生息密度を現状より低密度に</b></li> <li>▶ 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、<b>防護柵を適切に設置・維持管理</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 糞塊密度調査から低密度化しているが、植生への影響は低減されていない。</li> <li>▶ 保全対象の選定をしている。 既設の防護柵は維持管理はされているが一部管理が行き届いていない柵もある。 保全対象なり得る鬼怒沼湿原では早急な対策がとられた。</li> </ul>

## ○課題

**事業目標** ⇒ 低密度化の対策の継続は必要だが、奥日光地域と越冬地で指標が分けられていない。  
保全対象の植生保護のあり方の整理がされていない。

**最終目標** ⇒ 重要なのは奥日光地域のことと特に対策を行っている越冬地（足尾）は公園外である。  
公園内でも越冬と定住が混在していて指標が分けられていない。  
健全な植生の維持・更新に支障がない状態が明確に設定されていない。



**最終目標に対して対策の必要なエリアは奥日光地域で、公園全域を対象としていない。  
対策が必要な尾瀬及び奥日光の季節移動型個体の越冬地は大半が公園外である。  
最終目標に対して明確な指標が設定されていない。**

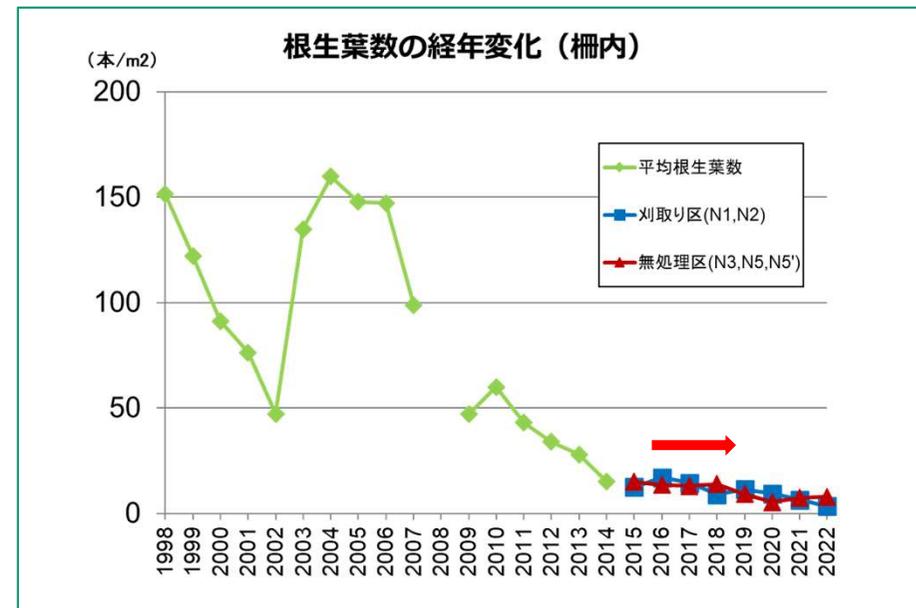


## 事業目標 (5年目途)の指標

### シカの生息密度を現状より低密度に



### 防護柵を適切に設置・維持管理





# 尾瀬国立公園

## 尾瀬国立公園

シカによる影響を受けずに成立した生態系

## 進捗・評価

### 最終目標

尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持

湿原及び高山植生（特に柵外）における採食地点数は増加しており、シカの影響を排除しているとは言えない。

### （5年目途）事業目標

- ▶ 湿原植生への影響を低減するため、尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減
- ▶ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置

- ▶ 湿原に出没する個体数（ライトセンサスによる調査結果）は、基準年（2019年）の約80%に減少したが、半減させるにはさらなる捕獲圧が必要か。
- ▶ 優先防護エリアA及びBランク11箇所中7カ所に設置完了（2023年7月時点）。2023年度中に9箇所設置完了予定。
- ▶ 植生保護柵内における採食被害は軽減できているが、シカの侵入を完全に防除できていない箇所もある。

### ○課題

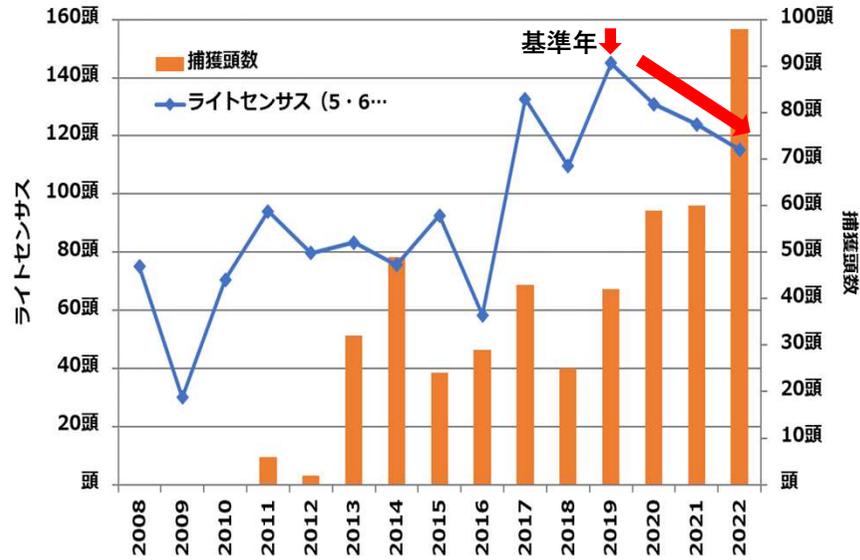
**事業目標**：2025年の目標達成に向けて、引き続き捕獲及び植生保護柵の設置を継続実施していく必要がある。  
**最終目標**：そもそも「シカによる影響を受けずに成立した生態系」かどうかは不明であり、「湿原及び高山植生への影響が見られない状態」を目標として設定することは不適切。**最終目標は、シカの影響を排除することで得られる状態ではなく、新・尾瀬ビジョンに準拠した状態を設定する必要がある。**

**対策方針の目的と整合を図りつつ、最終目標の見直しを行う必要がある。  
 しかし、対策方針の目的に尾瀬国立公園の目指すべき姿（新・尾瀬ビジョン）が反映されていない。**

（参考）対策方針の目的：日光国立公園及び尾瀬国立公園の関係機関・団体が広域的に連携し、シカの適切な個体群管理及びその他必要な対策を実施することにより、日光国立公園及び尾瀬国立公園の貴重な湿原、森林、高山生態系等に及ぼす影響を低減又は排除する。

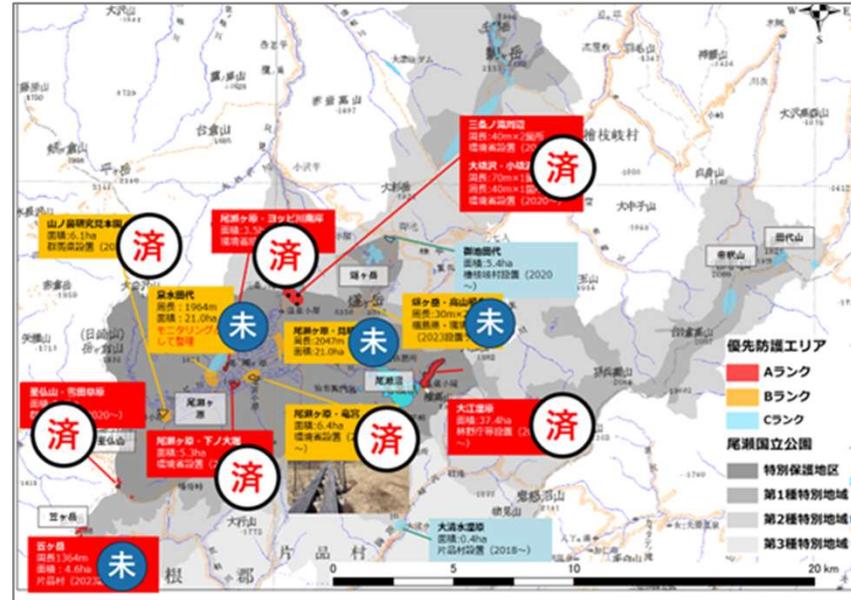
## ○事業目標（5年目途）の指標

ライトセンサスによるシカ個体観測数と捕獲数の推移



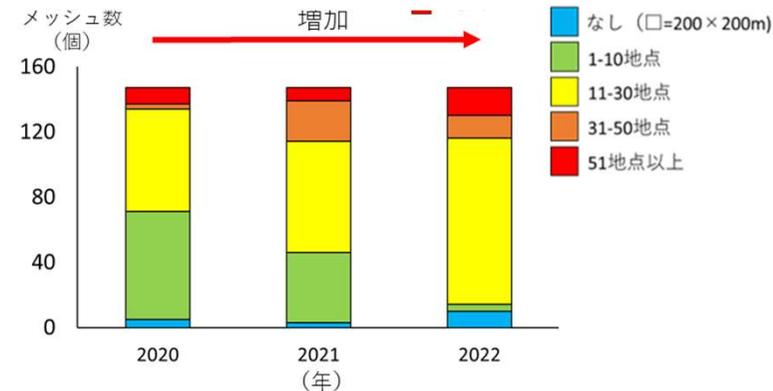
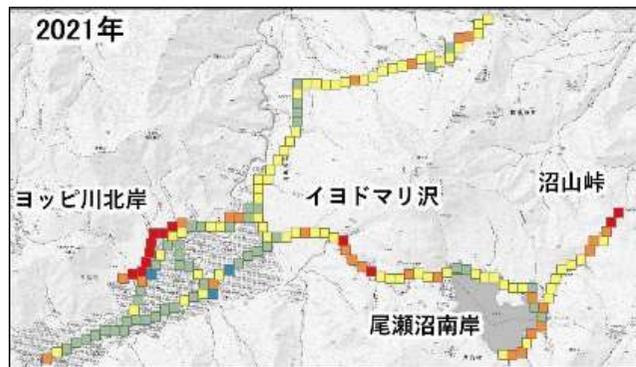
⇒湿原に出没する個体数は、基準年（2019年）の約80%に減少

植生保護柵の設置状況



⇒優先防護エリアA・Bランク（7/11ヶ所）に設置完了（2023.7現在）

## ○最終目標の指標



⇒湿原及び高山植生（特に柵外）における採食地点数は増加

# 新・尾瀬ビジョンの概要

～ 「あなた」と創る「みんな」の尾瀬 ～

## 新・尾瀬ビジョンとは？

尾瀬にかかわる「みんな」の想いをとりまとめた  
“これからの尾瀬がめざす姿と方向性”

最初の尾瀬ビジョン(2006年)の策定から10年以上が経過し、尾瀬を取り巻く自然的・社会的環境の変化等を踏まえ、将来を見据えたビジョンへと改定

### 自然的・社会的環境の主な変化

- ① 少子高齢化・人口減少による影響
- ② ライフスタイルの変化とレジャーの多様化
- ③ 外国人旅行者の増加
- ④ 気候変動による自然生態系への影響
- ⑤ ニホンジカによる影響
- ⑥ 財政状況などの悪化

### 活かしたい尾瀬の強み

- ① 歴史・伝統・文化の魅力
- ② 尾瀬が持つ普遍的価値
- ③ 自然保護の原点
- ④ ごみ持ち帰り運動発祥の地
- ⑤ 多様な主体が参加できる「仕組み」の存在
- ⑥ 一級自然の中で歩き、学び、宿泊できる特別感
- ⑦ 受け入れることができる利用者層の幅広さ

## 尾瀬がめざす姿

### 「みんなに愛され続ける尾瀬」

#### ○生きものの視点

尾瀬本来の生きものがありのままに生きている

#### ○利用者の視点

いつ来ても楽しく誰もがわくわくできる

#### ○地域の視点

地域の人々が誇りを持っていきいきできる



3つの視点のバランスが重要

## 行動理念

### みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ

みんな	尾瀬の普遍的価値を広く発信し、尾瀬を愛する輪を広げていきましょう
守る	かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、しっかりと次代に引き継いでいきましょう
楽しむ	自然を損なわない楽しみ方を考えながら、みんなが訪れたい尾瀬にしましょう



## 今後の方向性と必要な取組

### みんなを守る

- ① 自然豊かな尾瀬づくり  
(これまでの取組の継承、貴重な自然環境の保護、植生の荒廃対策、外来植物対策)
- ② 歴史・伝統・文化が息づく尾瀬づくり  
(歴史・伝統・文化の保全、新しい歴史・伝統・文化の創造)
- ③ 野生動物との軋轢の解消  
(ニホンジカによる被害の低減、ツキノワグマとの共存、新たな獣害への対応)
- ④ 科学的知見に基づく保全  
(調査研究の促進)



### みんなを楽しむ

- ① 魅力あふれる尾瀬づくり  
(尾瀬の魅力向上)
- ② 幅広い楽しみ方の検討  
(多様な利用方法の検討、エコツーリズムの推進、地域における利用の役割分担、滞在型・周遊型利用の促進)
- ③ 楽しむための土台づくり  
(安全対策、施設の整備、ルール・マナーの検討・普及啓発、望ましい交通アクセスの検討)



### みんなの尾瀬

- ① 愛される尾瀬づくり  
(尾瀬のファンづくり、尾瀬で学ぶ機会の拡大)
- ② モデルとなる尾瀬づくり  
(先進的な取組の推進)
- ③ 尾瀬を育てる仕組みづくり  
(多様な主体の参加と連携促進、担い手の育成、資金的サポートの呼びかけ)
- ④ 情報の効果的・効率的な発信  
(認知度の向上、情報の共有)
- ⑤ 尾瀬の現状把握  
(基本情報の収集)



### 新・尾瀬ビジョン Q&A

「みんな」って誰のこと？

「みんな」には、尾瀬にいるすべての生きものも含まれます。「あなた」を始め、すでに尾瀬と関わっている人、まだ尾瀬との関わりに気付いていない人、これから尾瀬と関わっていく人が含まれています。

新・尾瀬ビジョンで考える範囲は？

尾瀬国立公園 + 周辺地域 = 尾瀬 です。自然を守るための普及啓発や魅力の発信などは、地域を限定せずに進めていきます。

「尾瀬がめざす姿」ってどういうこと？

あなたや次代を担う子どもたちにとって、20年後の尾瀬がどうあってほしいか考えた姿です。

- (1) 現行対策方針に基づく目標達成にむけた進捗・評価及び課題
- (2) 対策方針の目的及び最終目標の改正案
- (3) 今後の検討ポイント

# 対策方針の目的及び最終目標の改正案

## 現対策方針の目的

日光国立公園及び尾瀬国立公園の関係機関・団体が広域的に連携し、シカの適切な個体群管理及びその他必要な対策を実施することにより、日光国立公園及び尾瀬国立公園の貴重な湿原、森林、高山生態系等に及ぼす影響を低減又は排除する

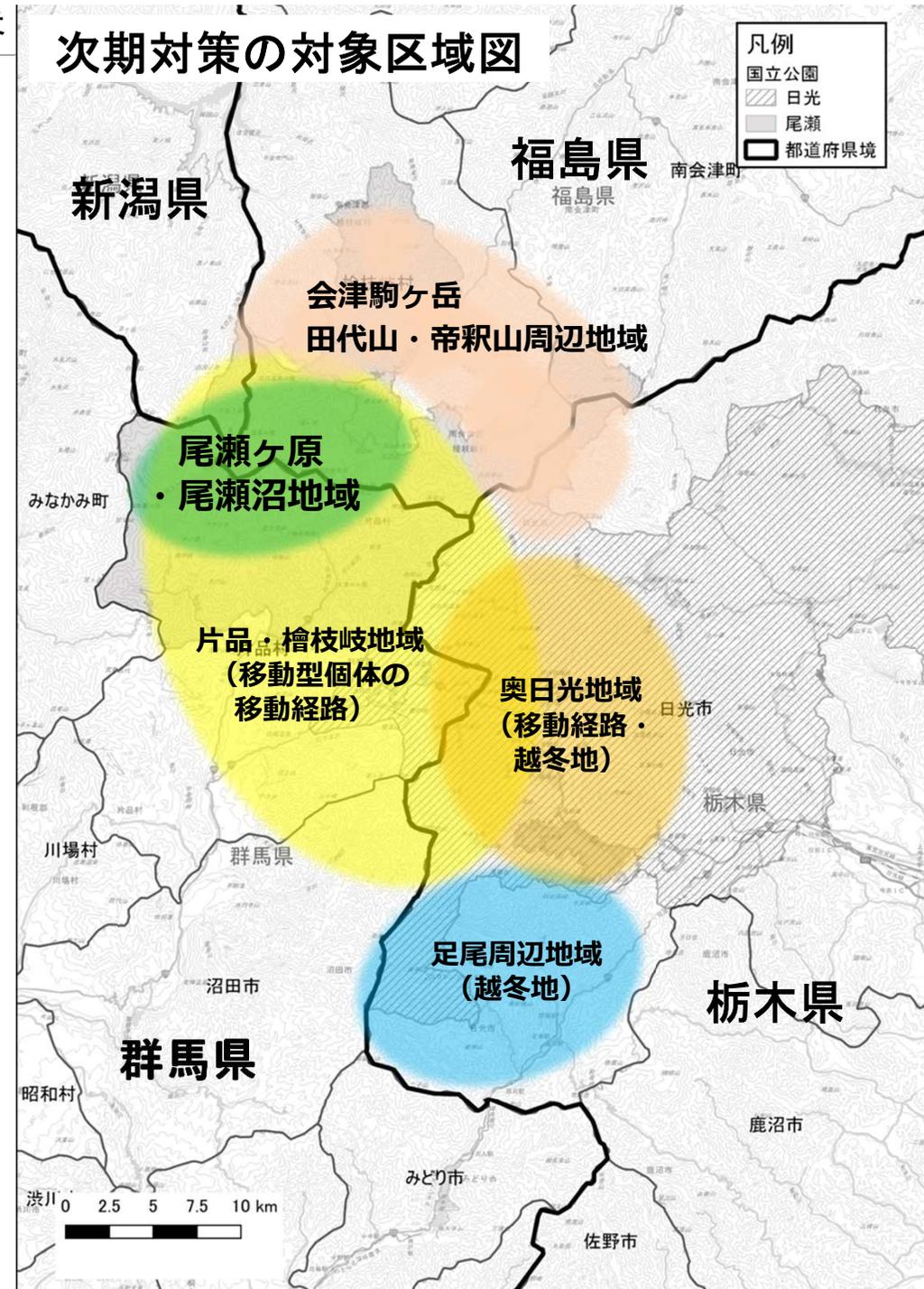
日光：最終目標に対して  
対策の必要なエリアは奥日光地域で、公園全域を対象としていない。  
対策が必要な尾瀬及び奥日光の季節移動型個体の越冬地は大半が公園外である。最終目標に対して明確な指標が設定されていない。

尾瀬：最終目標の見直しを行うにあたり、  
対策方針の目的に尾瀬国立公園の目指すべき姿（新・尾瀬ビジョン）が反映されてない。

## 新対策方針の目的（案）

尾瀬国立公園及び日光国立公園の関係機関・団体が広域的に連携し、シカの適切な個体群管理及びその他必要な対策を実施することにより、  
①新・尾瀬ビジョンが定める尾瀬がめざす姿の実現、もって、②尾瀬のみならず栃木、群馬、福島、新潟の4県を移動する（シカの）日光利根地域個体群を管理することで貴重な湿原、森林、高山生態系等に及ぼす影響を低減又は排除させる

## 次期対策の対象区域図



# 対策方針の目的及び最終目標の改正案

## 現対策方針の最終目標

【日光国立公園】 シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持する。

【尾瀬国立公園】 尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持する。



日光：重要なのは奥日光地域のことで特に対策を行っている越冬地（足尾）は公園外である。

公園内でも越冬と定住が混在していて指標が分けられていない。健全な植生の維持・更新に支障がない状態が明確に設定されていない。

尾瀬：「湿原及び高山植生への影響が見られない状態」は目標設定として不適切。

最終目標は、新・尾瀬ビジョンに準拠した状態を定量的な指標でもって設定する必要がある。

## 新対策方針の最終目標

### 尾瀬地域

尾瀬における保護上重要な植物種の主たる生育エリア及び利用上重要なエリアが、ニホンジカによる過度な攪乱を受ける前の状態にする。

- 保護上重要な植物種の主たる生育エリア（生き物の視点）及び利用上重要なエリア（利用者の視点）を合わせて重要植生エリア（仮）として再設置し、各エリアごと「ニホンジカによる過度な攪乱を受ける前の状態」を定量的な目標として設定する。
- 植生保護柵の管理やシカの個体群管理等の技術的な視点も考慮し、重要植生エリアの中で対策優先度を決定する。
- 社会状況の変化や技術の向上を考慮し、今後重要植生エリアや対策の優先順位は都度見直すこととする。

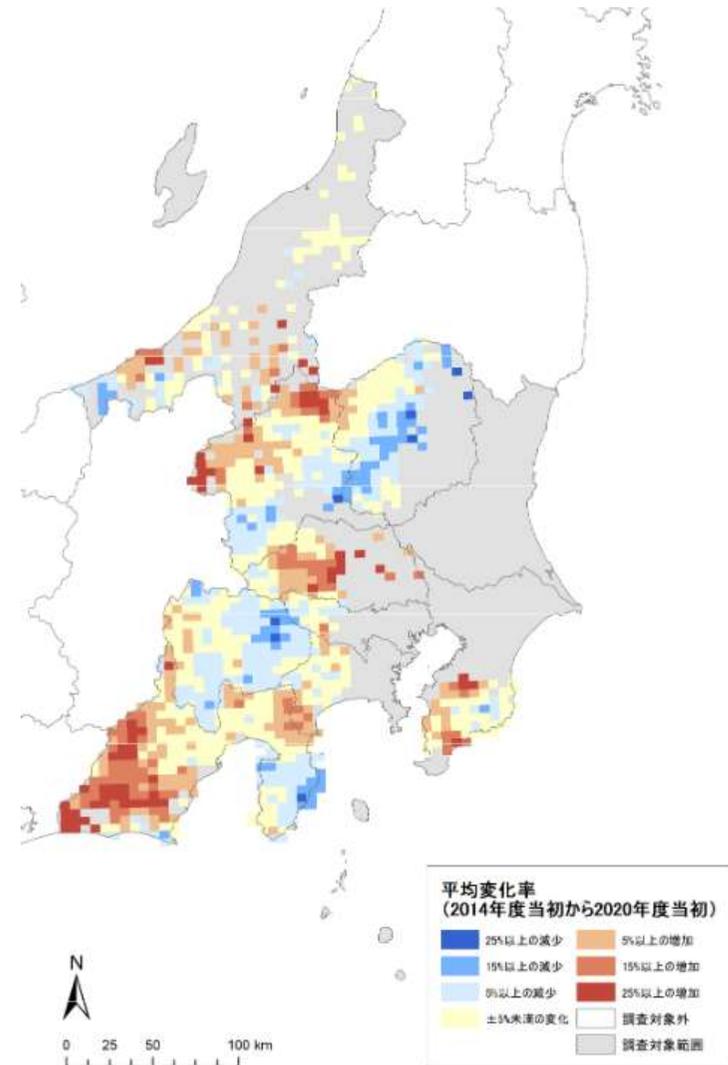
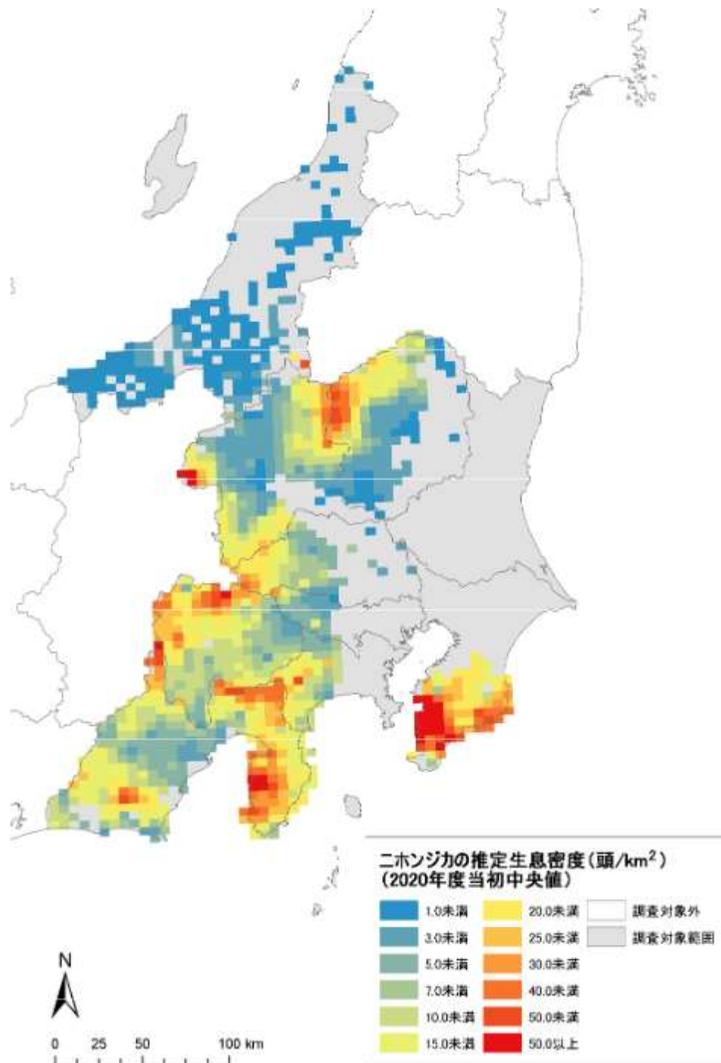
### 移動経路上の貴重な湿原、森林、高山生態系等

奥日光地域におけるシカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持する。

# 広域でのシカ対策の必要性

国立公園の区域を超えて、シカの個体群のつながりが存在

今後、各自治体の取組みともより連携させていただきたい



- (1) 現行対策方針に基づく目標達成にむけた進捗・評価及び課題
- (2) 対策方針の目的及び最終目標の改正案
- (3) 今後の検討ポイント

# 今後の検討ポイント（尾瀬地域）

## ○目的

- ① 新・尾瀬ビジョンが定める尾瀬がめざす姿の実現
- ② 尾瀬のみならず栃木、群馬、福島、新潟の4県を移動する（シカの）日光利根地域個体群管理をすることで貴重な湿原、森林、高山生態系等に及ぼす影響を低減又は排除

## ○最終目標

尾瀬における保護上重要な植物種の主たる生育エリア及び利用上重要なエリアが、ニホンジカによる過度な攪乱を受ける前の状態にする。

### 検討ポイント①

- 保護上重要な植物種の主たる生育エリア（~~生き物の視点~~）及び利用上重要なエリア（利用者の視点）を合わせて**重要植生エリア（仮）**として再設置し、各エリアごと「ニホンジカによる過度な攪乱を受ける前の状態」を定量的な目標として設定する。
- 植生保護柵の管理やシカの個体群管理等の技術的な視点も考慮し、**重要植生エリアの中で対策優先度を決定**。
- 社会状況の変化や技術向上を考慮し、今後重要植生エリアや対策の優先順位は都度見直す。

## 検討ポイント②

### 中間目標 1 - ①

### 中間目標 1 - ②

### 最終目標

## ○戦略

### ①被害管理

- 植生保護柵
- 保護エリア周辺の捕獲 など

### ②個体数管理

- 移動経路での捕獲
- 越冬地での捕獲 など

### ③モニタリング

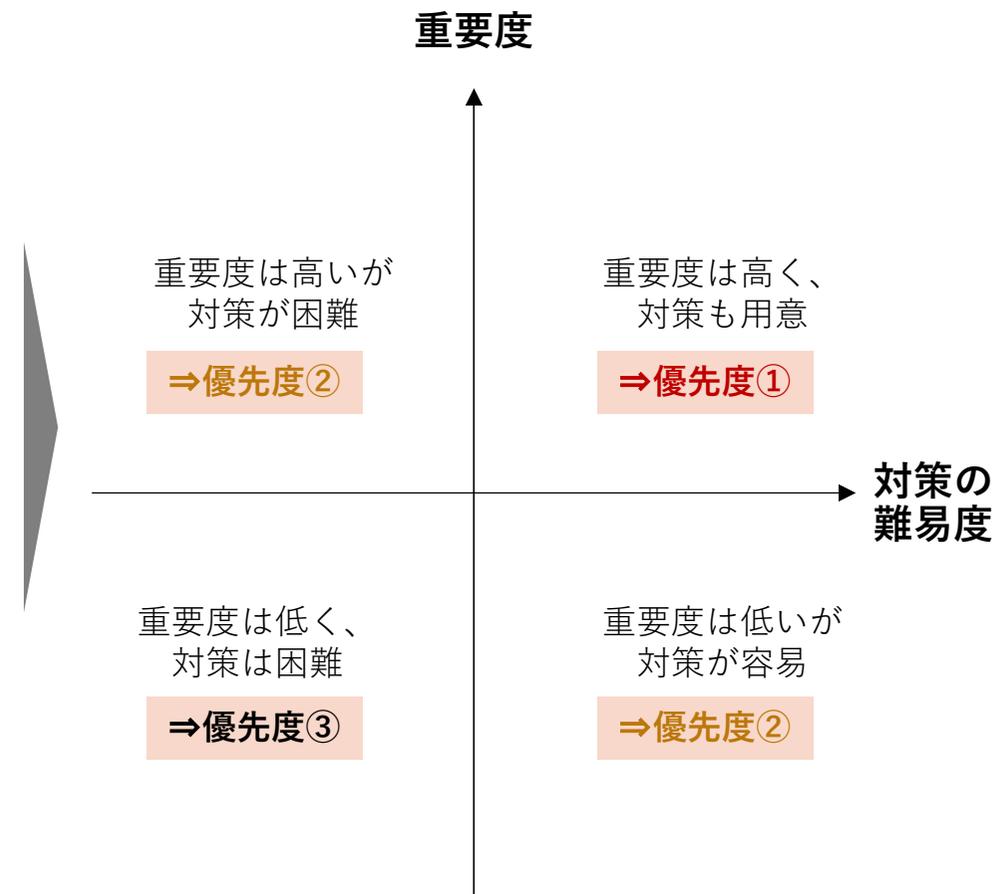
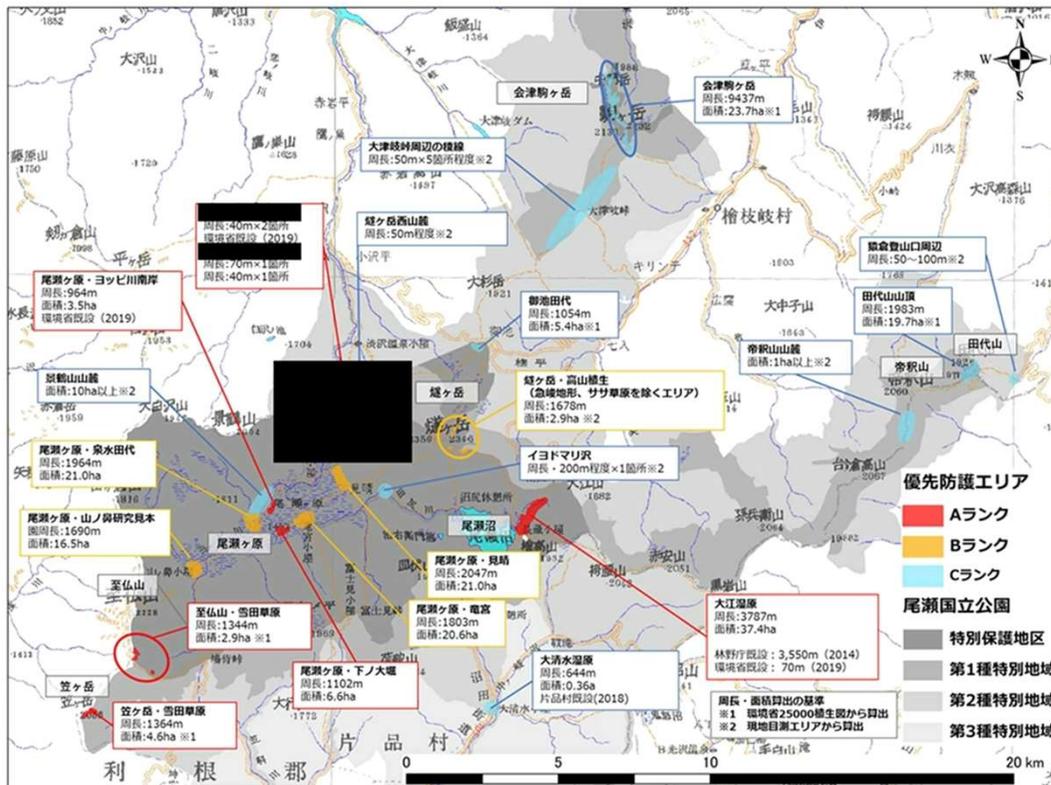
### 検討ポイント③

# 検討ポイント①重要植生エリア（仮）の設定と対策優先度の検討

## 以下の2つの観点から、優先防護エリアの見直しを実施。

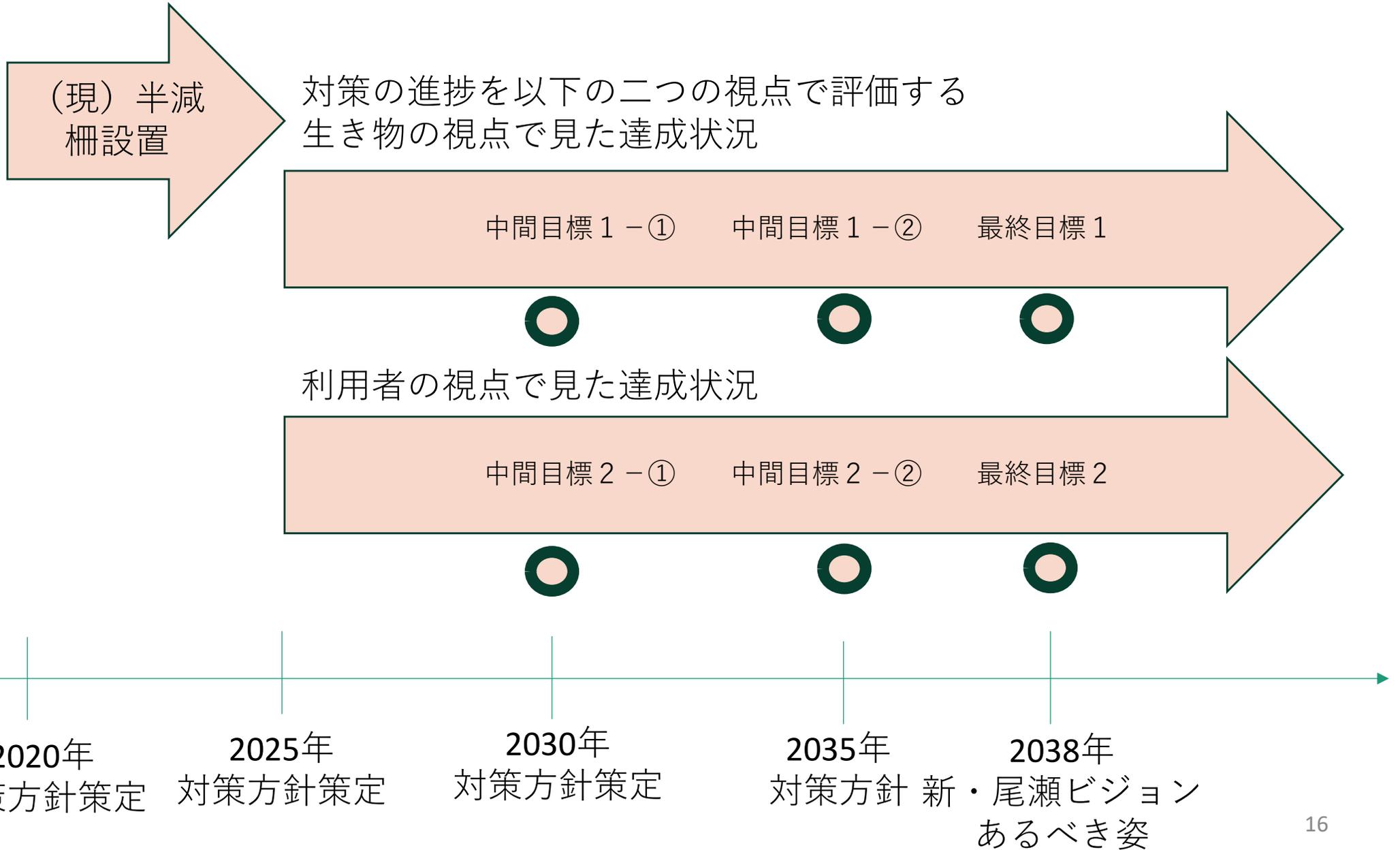
- ① 新・尾瀬ビジョンに定める「生き物の視点」、「利用者の視点」等の視点から重要植生エリア（仮）を再設定。
- ② 植生保護柵の管理やシカの個体群管理等の技術的な視点も考慮し、重要植生エリアの中で対策優先度を決定。

尾瀬国立公園優先防護エリア（2019）



※イメージです。

# 検討ポイント②目標達成に向けた中間目標と評価指標の設定



## 検討ポイント③

- 最終目標及び中間目標の達成に向けて、適切な手法を組み合わせることで対策を実施していく必要があるが、現行対策方針では、捕獲・植生保護柵・モニタリング等の対策手法の考え方は整理されていない。
- 今後、各対策による直接効果及び波及効果の考え方を整理し、尾瀬国立公園ならではの戦略検討を行う。

